

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1131

「NEWSな濟生人」

自動車事故による
遷延性意識障害の患者を救う
濟生会唯一の病院



9

September 2023

社会福祉法人 恩賜財団 濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>

濟生会の 不易流行論

180

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani



「高福祉中負担社会」への提案

8月の経団連の集計結果によると、大企業の23年度の定期昇給とベアを合わせた賃上げ率は、3・99%だった。22年度の1・72%を上回り、30年ぶりの高水準である。でも名目の給料は上がっても手取りを見ると、がっかりする。税金や社会保険料の控除額も増えているからだ。年金受給者も同様だ。介護保険料や後期高齢者医療保険料

の天引き額が増えて手取り額が減少している。物価高も加わり、日々の生活は苦しくなっている。日本の税金と社会保険料を合計した国民負担率は、段々と高くなっていく。20年は47・9%だったが、イギリス46・0%、カナダ46・0%、アメリカ32・3%よりも高い。さらに将来の世代の負担になる国債発行額は急増している。

政治家は国民の不評を避けるために、財源を国債に求めがちである。負担の痛みが分かりにくい社会保険料負担を増加する手法が取られる。先ごろ定められた「子ども未来戦略方針」の実施に要する財源のうち1兆円程度は社会保険制度からの「支援金」として調達するとされた。理屈に理屈を捏ねて社会保険料でないと構成するらしいが、国民負担の増加であることには変わりがない。

このように国民が気のつかないうちに日本は、いつの間にか高負担国家への道をひた走りだ。☆ ☆

どのような負担が望ましいかは、国家のあり方の根本にかかわる。国民のコンセンサスによって決めなければならぬ。北欧諸国、ドイツ、フランスは、高福祉高負担を選択している。この基盤には国家への信頼と国民の連帯感の強さがある。

これに対して日本人の意識や風土からは、高負担ではなく、中負担の選択が大多数の賛成を集めるだろう。そうであるならば、今こそ高負担への道にストップをかけ、中負担に押し戻すことが必要である。

だからと言って高福祉を諦める必要はない。中負担ならば中福祉というのは役人や学者の言い分だろうが、日本は「高福祉中負担社会」を目指すことがベストであるし、可能であると私は、メディアや講演会など機会あるごとに訴えている。このための具体的な方法も提案している。

第1は、現行の社会保障制度にはムダが多く、抜本的な改革を図らなければならない。これによって高負担の是正を早急に図らねばならない。

第2は、企業の社会貢献の推進である。企業は本場のSDGsに取り組みが必要があり、それには結果を公表する仕組みが効果的である。

第3は、公益団体、協同組合、NPO、住民団体等の中間団体が社会サービスを積極的に実施することである。これによって第2と合わせて、国民負担を増大させないで、福祉の増大を図れる。濟生会も中間団体であるので、その役割の中核を担いたいものだ。

人事給与システムが変われば、どうなる。



日立システムズはニッセイコム社製人事給与システムをご提案致します。

特長1	給与計算時のExcel管理を削減!	特長2	人事情報からの自動計算!	特長3	様々な支給形態に対応!
GrowOne 人事SX GrowOne 給与SX	各種手当や退職金の計算をシステム内で完結することで、給与計算にかかる時間数や計算ミスリスクを削減できます。		家族情報から扶養手当や年末調整を自動計算し、介護保険等の年齢による控除や手当も自動化できます。		正職員、非常勤職員や日給・時給など様々な雇用契約に応じた支給形態に対応し、職員情報から自動判定できます。

株式会社 日立システムズ

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー
福祉の森担当：福士
フリーダイヤル：0120-055-294

Human * IT



9月のたよりが聞こえる 栗の季節

俳人・山口青嶺にこんな句がある。
栗も食べ松茸も食べありがたし

秋を代表する山の幸、確かに文句なく、ありがたい。

北半球に広く分布する栗を、日本人は1万年以上昔から食べてきた。採集して食べるだけでなく、縄文の集落周辺には栗の木を植えていた跡があり、青森・三内丸山遺跡から出土した栗はDNA分析で栽培種と判明している。

ゆで栗、焼き栗、栗ご飯。栗おこわに栗きんとん。栗ようかんにマロングラッセ。さらに、栗といえはモンブラン……ん？

モンブランはケーキではなく、フランスとイタリアにまたがるアルプ

スの最高峰。フランス語で白い山。イタリア語だとモンテピアンコ。もともとはその山をモチーフに、マロンペーストに泡立てたクリームを添えたデザートだった。自分の

ほうから見える山の形に合わせフランスは丸く盛り上げ、イタリアは三角形に。日本ではスポンジとホイップクリームを土台にマロンペーストを糸状にしほり、てっぺんに甘露煮の栗。この和製モンブラン、東京・自由が丘の洋菓子店が発祥とされる。いずれにせよ、これも山の幸か。

縄文時代から栽培してきた栗が危機を迎えたことがある。戦前、旧日本軍が中国大陸から持ち込んだ苗木にクリタマバチの虫こぶが付いていた。新芽に卵を産み付けて虫こぶを作り、その中で成長すると、花が咲かず、実もならない。昭和20年代には、各地で100を超す品種がクリタマバチによって消滅したという。

その後、抵抗性のある品種が開発される一方、旧農林省から国交回復後の中国に天敵利用技術交流団が派遣され、クリタマバチの幼虫に卵を産み付けるチュウゴクオナガコバチを持ち帰った。1979、1981年の2回、生物的防除として茨城県など栗の主産地で、この天敵を放飼。被害は激減し、縄文以来の栗栽培は守られたのである。

そしてまた、栗の季節を迎える。

表紙のことば

信州の思い出は北齋と栗の菓子

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

葛飾北齋を見に信州を訪れ、北齋館、岩松院の「八方睨み鳳凰図」を心ゆくまで見上げた、という忘れられない旅の記憶があります。時間を忘れて楽しんで、慌ててお土産に栗菓子を買って帰途につきました。

帰ってそれを食べた時の驚き。「もっとたくさん買えば良かった」。こちらも忘れられないほどの美味しさと後悔でした。日本には栗の名所がいくつもあります。素晴らしい季節が始まります。



巻頭コラム 済生会の不易流行論 「高福祉中負担社会」への提案 理事長 炭谷 茂	03
9月のたよりが聞こえる 栗の季節 表紙のことば 久保田真由美	05
ソーシャルインクルージョン	20
第21回全国済生会在宅サービス協議会	26

題字協力：石飛博光
アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

済生

SAISEI

CONTENTS
SEPTEMBER, 2023

NEWSな済生人

自動車事故による遷延性意識障害の患者を救う
済生会唯一の病院

岡山療護センター

診療部長（脳神経外科）

鎌田一郎さん +

看護師長

三崎律子さん +

看護主任リーダー

田中妃路美さん

済生会交差点

《離島での健診事業》4年ぶり・50回目の実施。医師不在の離島で暮らす人々を支える定期健康診断／《虐待予防は産科から》「気になる妊婦」を見逃さず、多方面から出産・育児を支える／《ふれあい看護体験》コーヒー牛乳で透析実験!? 工夫を凝らした体験企画で医療・看護の魅力を伝える

この人 福地桃子

口福にっぼん 吉井省一

だれでもかんたん てづくりおもちゃ
いまいみさ

TOPICS

大雑報

自動車事故による遷延性意識障害の患者を救う 済生会唯一の病院

自動車事故による脳損傷で重度の後遺障害を負った人のための専門医療機関が済生

会にあることをご存じですか？ 一般病院とは異なる体制や設備で患者さんとその家

族に寄り添いながら、手厚い治療と看護を提供する岡山療護センターを紹介します。
(岡山県済生会 済生記者 高畑貴子)



岡山療護センター

診療部長（脳神経外科）

鎌田一郎さん

看護師長

三崎律子さん

看護主任リーダー

田中妃路美さん

世界的にも珍しい日本独自の医療システムで充実したリハビリ治療を



思い出の写真を見せながら記憶に語りかけることで反応を示すことも

行なっているのですね。
鎌田 このでのリハビリテーションは残存する脳細胞の機能を再生させるために必要です。医療保険では頭部外傷、脳卒中などの脳血管疾患のリハビリは発症から180日以内と決められており、それ以降は介護認定を受けていない場合は月13単位（1単位20分）が限度となっています。療護センターの入院期間は最大で3年、そうした制約を受けず、患者さ

んに必要なだけリハビリを提供することが出来ます。
高畑 3年も……。どのような患者さんが入院していますか？
鎌田 歩行中あるいは自転車やバイクの運転中に自動車事故に遭ったケースが多く、バイクの場合は自損事故もあります。入院は脳損傷を受け重度の後遺障害がある人で、一定の要件に該当することが条件になります。
高畑 一定の要件とは？
鎌田 遷延性意識障害重症度評価表（ナスバスコア）という指標を使って、運動機能・排泄機能・認知機能などを評価します。入院時に視覚・聴覚・触覚を刺激して、対応する大脳皮質領域の活性化の有無を調べます。脳の電気的活動を誘発することで感



病室の仕切りを最小限にすることで患者さんのわずかな回復の兆しをとらえることができる

覚路が保たれているかどうか分かります。また、MRI検査などで残された機能があることが分かれば、おおよその治療目標を立てることが出来ます。

最良の医療、環境を整備し治療効果の向上をはかる

高畑 患者さんとはどのような一日を過ごしているのですか？
鎌田 重症度などによって異なりますが、一例を挙げると、朝6時に起床、ケア・更

高畑 改めて伺います。「岡山療護センター」はどのような医療機関ですか？
鎌田 自動車事故による脳損傷で重度の後遺障害（遷延性意識障害）を負った人を専門に治療する病院です。国土交通省が所管する自動車事故対策機構（ナスバ）が全国に12カ所（療護センター4カ所、委託病床8カ所）設置、そのうちの1つを岡山県済生会が受託しています。日本以外にこのような交通事故患者専用の施設はありません。
高畑 一般病院とは何が違うのですか？
鎌田 療護センターは入院専門です。1人の看護師が1人の患者を一貫してケアするプライマリナーシングも特長の一つです。現在、10代から80代の患者さん46人が入院していますが、看護師が68人配置されています。単純に計算しても1・5対1という手厚い看護体制です。
高畑 まさに一人ひとりに寄り添う医療を

※写真撮影時のみマスクを外しています

患者さんの状態に合わせた治療で
わずかな変化も見逃さない



音楽療法の一環で、職員が定期的に演奏会を開催。患者さんの家族も集う

「今日も顔色がいいね！」患者さんの元気な姿を見られることが何よりうれしい

患者さんの状態に合わせてリハビリで起き上がりや寝返りができるようになることを目指す

衣から始まります。

7時に朝食をとって、歯磨きをし、9時に入浴・リハビリ・処置と続き、11時に身支度・髭剃りなどの整容をして午前中が終了。12時に昼食・歯磨き、13時から1時間ほど昼寝をし、その後検温・リハビリ、17時からケアを30分間受けた後、30分間安静にします。18時に夕食をとって歯磨きをし、21時に就寝します。

高畑 生活のすべてがリハビリですね。

鎌田 今では信じられないかもしれませんが、当センターが開設された当初、リハビリは重視されていませんでした。その後リハビリに対する考え方が大きく変わり、全国の療護

施設の取り組みからリハビリの重要性が明らかになりました。

高畑 設備も一般の病院とは違いますね。

三崎 病棟は病室の仕切りを最小限にしています。その理由は患者さんのわずかな回復の兆しを捉え、効果的な治療・看護を行なうためです。

高畑 それでこのようなレイアウトになっているのですね。

三崎 はい。フロアの一角にナースステーションがあり、患者さんを集中して観察できるようにになっていて、いつでもベッドサイドに駆け付けることができます。一方で、万が一の感染症発生患者を想定して個室も整備されています。

高畑 病棟が広くて明るいのにびっくりしました。手作りの飾り付けも素敵です。

三崎 大きな窓のそばに全てのベッドを配置しています。外からの自然光が差し込み、季節や一日の移り変わりが感じられるよう



聞き手の高畑さん

にするためです。

田中 飾りは患者さんの五感を刺激するためにさまざまな工夫を凝らしています。夏季ははてる坊主や七夕の短冊が飾り付けてあります。

鎌田 音の刺激も重要で患者さんの好きな曲を日常音として流すことで意識が覚醒する可能性があります。音楽療法の一環として定期的に演奏会を開いています。管弦楽器や打楽器など自前の楽団を編成し、私もフルートを担当しています。演奏会には患者さんのご家族も集まります。

高畑 スタッフのユニホームがカラフルですがこれにも理由が？

田中 はい。患者さんの視覚への刺激を期待して、看護師のユニホームは緑・紺・橙・ピンクなど7色があり、希望により複数色配布されます。スタッフはそれぞれ好きな色を毎日選んで着ています。

高畑 スタッフがベッドサイドで患者さんに熱心に話しかけている様子が印象的でした。

患者さんの表情が変わった瞬間
真っ先に家族の顔が浮かんだ

かりな機器としてはSPECT-CT、3.0テスラMRI、320列CTなど高性能の画像診断装置や、高気圧酸素治療装置などを備え、岡山済生会総合病院や岡山大学病院と連携して治療を行なっています。

高畑 岡山療護センターに入職したきっかけを教えてください。

鎌田 当センターに着任して5年余りになります。当初は遷延性意識障害という重いものを私は背負うことができるだろうかという悩みました。しかし、それは杞憂であることがすぐにわかりました。

高畑 といいますと？

鎌田 当センターでは地域連携室が重要な役割を果たしており、患者さんの入院中の生活から家族の心理・精神面まで、ソーシャルワーカーに全面的に任せることができます。

そのおかげで私は診療に専念することができ



高畑 入職してどうでしたか？

田中 入職した当初は看護の基本に関わることが新鮮で、楽しくてしようがなかったことを覚えています。患者さんの反応に変化が

期病院の看護に従事していました。特にがん病棟では亡くなっていく患者さんたちを前に自分に何ができたのか、自問自答したこともありました。その中で当センターを見学。それまでの職場にはない環境で働く看護師の姿に感動してここで働くことを決めました。看護の基本に関わる職場だと思います。

高畑 やってきてよかったと感じるのはどんなときですか。

三崎 なにかのきっかけで患者さんの表情が変わる瞬間に立ち会えたことがありました。「やったー」と心の中でガッツポーズが出ました。ご家族に少しでも早くこの表情を見せてあげたいと思いました。そのきっかけは例えば看護師の声掛けであったり、好きな歌や家族の声であったりします。

田中 私も以前は急性期の看護に従事していましたが、がん病棟では患者さんが亡くなった先から、そのベッドに新たな患者を迎えるという日々でした。看護にじっくり関わりたいという気持ちがあり、知り合いから当センターのことを聞いて、そんな職場で働きたいと強く思いました。

岡山療護センターでの入院は
患者さんや家族にとって次の生活への第一歩



地域連携室主任 (MSW)
浜野朋子さん

「行ってきます」と朝、元氣よく出かけて行った家族の変わり果てた姿と対面し、理不尽な現実を受け入れられない人たちとお会いしてきました。何の落ち度もなくこれからも続くはずだった日常生活を

一人ひとりの尊い人生に向き合い
退院後も見据えた支援を行なう

破壊された人たちの持つて行き場のない怒りや悲しみを受け止めてきました。

交通事故被害者や家族に対して、国は自賠責保険、障害福祉サービスや、障害年金、労災年金など福祉的、経済的な支援制度を設けています。また、重度の後遺障害で移動や食事などの日常生活動作に介助が必要な人にはナスバから介護料が支給されます。さらに、交通遺児に対する支援も行なっています。

当センターにはさまざまな境遇の患者さんが入院しており、一人ひとりの尊い人生を大切にしています。特別支援学校の生徒さんのベッドサイドで教師が授業を行なう訪問支援などは、療護センター



庶務課長 四十裕介さん
事務長 四木和之さん

交通事故の重度後遺障害者数は横ばい
療護センターの重要性を改めて実感

療護センターは全国に4カ所(宮城・千葉・岐阜・岡山)あり、当センターは病床数50床の病院で、来年2月で30周年を迎えます。主なスタッフは医師5人、看護師68人、セラピスト12人、ソーシャルワーカー2人他、総勢約100人で運営されています。西日本で唯一の療護センターですが、東京や沖縄などからも患者さんを受け入れ、今年3月までに24

は申し込みから入院するまでの期間が約60日と、他の療護施設より平均約40日短いのが特長。岡山大学や岡山県済生会などの有識者が構成される入院審査委員会の審査が迅速で手続きがスムーズなことが要因の一つです。交通事故負傷者や死亡者数は減少していますが、重度後遺障害者数は横ばいで推移。当センターの役割の重要性を改めて認識しています。

都道府県から489人が入院しました。当センター

でも岡山独自の取り組みで、ここで卒業証書を授与された生徒もいます。退院後、自宅に帰ることを希望する患者さんに対しては、当センターの近隣であれば、訪問看護師やヘルパーさんに患者さんの状態などを情報提供し在宅介護に備えて準備することも可能です。しかし、患者さんの自宅が遠方の場合には自宅近くの病院や療養施設などに一旦移り、そこで在宅復帰の調整をするケースが多くあります。私は同センターで20年以上、MSWとして患者さんの入退院の支援をしてきました。退院後の相談もよく受け、患者さんと家族を孤立させないようにすることもソーシャルワーカーの重要な役割と考えています。

岡山療護センターにしかない
看護の本質に触れる機会を提供する



総看護師長
山田由紀子さん

岡山済生会看護専門学校では、2年生のカリキュラムに同センターでの見学実習が組まれています。将来はここで働きたいという生徒もいます。済生会以外の看護学校からも実習に来て、コミュニケ

ーションや看護技術を学んでいます。看護師を目指す若い世代にとって、看護の本質に触れる機会を提供できる当センターの存在は貴重です。ただ療護センターは自動車事故による負傷者に特化した病院であり、また一般外来を実施していないため、社会的にも医療施設にも存在があまり知られておらず、今後知名度を上げ、少しでも多くの自動車事故で困っている人を支援することが課題です。



人間の生きる力の強さを信じて患者さんを支える看護を実習することができる

見られたときに、他のスタッフと共有できる喜びをかみしめています。
高畑 患者さんの退院の目的はどのように判断するのですか？
鎌田 医師・看護師・セラピストが定期的に一堂に会して評価し、ナスバスコア20点が目安になります。
高畑 患者さんの退院は感慨も一入では。
三崎 3年間は長いもので患者さんに感情移入してしまい淋しさを感じてしまうこともあります。患者さんや家族の方にとって当センターでの入院生活が次の一歩へつ

ながることを願って見送っています。
鎌田 以前は、超急性期医療の現場で一刻を争う状態の患者さんに短時間のうちに処置をするという治療が続き目なく続くのが脳神経外科医の仕事でした。先日、当センターを退院した患者さんが2年ぶりに訪ねてきました。元気な姿を見て、患者さんと

の3年間を思い出し、「この人の人生をつなぎとめることができたんだなあ」としみじみ思いました。ふと、今の仕事にゴールはあるのかなと自問することがあります。患者さんが退院後もどこかの施設で人生が紡がれているなら、それがゴールかもしれませんね。
き合い、そして命を繋ぎ、その人の人生を紡ぐことに全力を尽くす「チーム療護」。生を守ることに尊さを改めて考えさせられた貴重な取材となりました。(高畑貴子)

【小呂島定期健診。交流の場にもなっている】

①健診時に持ち込む荷物の総重量はなんと420kg ②島に到着後、島民のみなさんの協力のもと荷物の運搬を行なう ③落合利彰副院長の診察。離島での診察は9年目となる ④採血ブースでの談話。「看護師さんたちは、島の食事はどうだね？」と島民の方が気遣ってくれる場面も ⑤健診会場は、島民同士のコミュニケーションの場にもなっている ⑥懇親会では新鮮な海の幸を使った手料理がずらりと並ぶ。「後継者不足に悩んでいる」「祇園山笠の魅力はね……」など、島民から普段の話を聞ける貴重な時間でもある



濟生会 交差点

SAISEIKAI・JUNCTION

濟生会にはたくさんの道があります。
道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。
そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。
「笑顔」です。



患者に寄り添う
医療の原点に帰る

今年6月8〜9日、医師・歯科医師・看護師・薬剤師・検査技師・歯科衛生士・事務職員
の総勢23人を派遣して定期健診を実施しました。内容は身体測定・血液検査・尿検査・心電図・腹部超音波検査・視力検査・内科・婦人科診察などで、30代から90代の島民約80人が受診。最近では島民の高齢化に伴い、およそ8割が当院のかかりつけ患者となっているため、普段の外来診療の延長のようにも感じます。また、島民には同姓の方が多く、診察時は「ハルミさん」と「シズオさん」など名前呼び入れることが慣例になっており、より親しみが湧いてきます。

健診で病気が発見され、早期治療につながることもあり、島民からは「健診目的で市街地まで出かけるのは億劫なため、ここまで来てもらえるのはありがたい」との声もあります。

4年ぶり・50回目の実施

医師不在の離島で暮らす人々を支える定期健康診断

玄界灘に浮かぶ小呂島。200人ほどの島民が漁業を生業に暮らす



歴史を刻む小呂島診療

小呂島は福岡市の北西40キロ、玄界灘に浮かぶ人口200人ほどの無医地区の島です。30年ほど前まで島の暮らしはとて不節目の50回目を迎えました。

当院は濟生会の理念「施薬救療」の一環として離島診療を実施。昭和46年から開始した小呂島への医療スタッフの派遣が脈々と継続されています。新型コロナウイルスの影響で4年ぶりの実施となった今年の定期健診事業で、

離島での健診事業

福岡総合病院
副院長
落合利彰

便で、電気や水道も整備されておらず、雨水をタンクに貯めて生活水を確保。発電機はランプやろうそくで暮らしていたそうです。平成元年に海水ろ過装置が設置され、ようやく生活環境が向上しました。

今こそ市営渡船を使い約65分の所要時間で渡れますが、平成5年以前は定期便が少なく、医療スタッフは漁船で約2時間半をかけて渡っていました。

小呂島診療の始まりは昭和36年、福岡市教育委員会の要請による小中学生の歯科検診・治療。その後、昭和46年からは年1回、内科、整形外科、眼科、小児科、耳鼻咽喉科、歯科が参加する定期健診診療班の派遣が始まり、さらに昭和51年からは福岡市からの委託で月に1回、ヘリコプターによる医師・歯科医師の派遣診療も行なわれています。島の生活環境が整備され、福岡市

して受け継がれています。多くの島民が受診できるよう、健診の実施は天候不良で休漁と





7月21日開催の「気になる妊婦連絡会」は合同カンファレンスとして当院の多職種メンバー、港南区子ども家庭支援課職員やソーシャルワーカーなど21人が集結

児童虐待相談対応件数の推移



この地域と当院双方の支援体制や支援内容、連携方法などを共有することで、対象事例を地域のサービス利用につなげたり、当院での妊娠期・産褥期の保健指導に生かしたりしています。

多職種・地域との連携がサポートの鍵

特定妊婦など、より細やかな支援が必要と思われる事例の場合には、さらに個別カンファレンスを行なうこともあります。ここでは、実際に対象事例の家庭訪問を行なった地域の担当者の客観的な視点で、訪問時の妊婦とその家族の様子、養育環境についての情報が共有されます。また、当院から地域の担当者へは対象事例の受診時の様子や、実際の産後の育児手技や見に対する心情などをサポートした時の状況を共有。連携して継続的

後の回復期間における女性性)などの事例について情報共有を行ない、多職種の視点でどのような支援を行なっていくかを話し合っています。共有されるさまざまな事例の中には、院内で提供可能なサービスだけでなく対応が不十分と思われるものもあります。そこで年に2回ほど、地域の担当者(港南区子ども家庭支援課)にも連絡会に参加してもらい、合同カンファレンスを行なっています。

当院での「気になる妊婦」報告事例数



す。

わたることが重要であるとされてきました。そこで、当院では小児虐待事例ゼロを目指し、「気になる妊婦連絡会」を5年前に立ち上げました。院内の産科・小児科・精神科の各医師・看護師・助産師・MSW・公認心理師など多職種が参加し、2カ月に1回のペースで開催しています。

連絡会では、「妊娠したけれども誰にも打ち明けられない」「パートナーが働いておらずお金がない」「何とかなると思っていたので分娩後の準備をしていない」といった発言をする「気になる妊婦」や、「育児指導なんて聞かない、だってウサギを育てたことがあるもん」と言っている話を聞こうとしない妊婦(出産

虐待予防は産科から

〈神奈川〉
横浜市南部病院
副院長・産婦人科主任部長
遠藤方哉

近年、外国人やシングルマザー、心の問題を抱えた人、経済的困窮者など、育児に不安のある妊婦が増加傾向にあります。

「気になる妊婦」を見逃さず多方面から出産・育児を支える

す。子どもの養育について出産前からの支援が特に必要と判断される妊婦を「特定妊婦」と呼びますが、厚生労働省の調査に

よるとその登録数はこの10年で約8倍にもなっています。加えて、児童相談所における児童虐待相談の対応件数は増加の一途をたどっており、虐待の発生予防には、妊娠期から関



健診終了後、訪れたスタッフで集合写真の撮影

また、診療班には必ず研修医が参加、地域医療研修の場にもなっています。ゆっくりと丁寧な診察を行なうことで、患者に寄り添う医療の原点に立ち戻ることができそうです。診療・検査の合間には外に出て海を眺めたり、島の猫と戯れたりするなどの癒やしの時間も。そして、我々医療スタッフが楽しみにしているのが、診療後の島民のみなさんとの懇親会です。新鮮な海の幸を肴に、漁業やお祭りの話や日常生活での苦労話など、都会では経験できないような島の暮らしぶりをお聞きしながら、楽しい時間を過ごします。

の方々の受診率のさらなる向上などが挙げられます。また、適切なタイミングで十分な医療が受けられないことへの島民の不安は強いものがあります。等しく医療を受けることができない方々へ医療の場を提供することは地域支援・救命救急病院としての当院の役割です。これから小呂島への健診事業を続けていきます。



帰りの船の出港。島民のみなさんが、スタッフたちをあたたかく見送る



血圧測定・酸素飽和度測定・ストレッチャー試乗体験を行なうブース。レクチャーの後、聴診器を使っての血圧測定を実演



採血シミュレーター体験では、マンツーマンでのレクチャーの後、人の肌に近い感触の採血練習用の模型に、緊張した面持ちで採血針を刺す



看護師や臨床工学技士、管理栄養士など多職種で、「高校生にとってうれしい体験は何か」を考えながら意見を出し合って企画



参加する高校生に、当院についての説明を行なう森真須美絵総看護師長

高校生向けにわかりやすくアレンジしました。
「透析分離実験」ではまず臨床工学技士2人の手作りによる紙芝居で、臨床工学技士の仕事や透析装置の役割を知ってもらいます。その後に行なう実験では、コーヒー牛乳を人間の血液と仮定し、実際の透析装置によって身体に必要なもの（牛乳）と不必要なもの（コーヒー）に分ける様子を観察。透析装置から出てきたコーヒーを見たり匂いを

嗅いだりする高校生たちの真剣な眼差しと、驚きの表情がとても印象的でした。
また、昨年と同様に人気があったのが、実際の採血針を使った採血シミュレーター体験です。みなさん最初はとまどいながら針を持つものの、先輩看護師に見守られながらうまく採血ができる、「ほっ」とした表情に。周囲からは自然と拍手が沸き上がりました。
体験の間には先輩看護師と

ふれあい看護体験

〈岡山〉
吉備病院
済生記者
難波美紀

コーヒー牛乳で透析実験!? 工夫を凝らした体験企画で 医療・看護の魅力を伝える

「看護の日・看護週間」記念事業の一環として全国的に開催されている「ふれあい看護体験」。当院も地域の方々に当院や看護の仕事の内容を知ってもらうため、年に1回開催しています。これまで、「患者食の試食」や「実際の看護現場の見学」といったテーマで行なってきました。

8回目となる今年5月13日。「将来看護師を目指したい」「看護職の仕事を知りたい」という高校3年生を対象とし、周辺の高校へ案内状を送付したところ、3校から12人が参加しました。3〜4人のグループに分かれて各体験ブースを回ってもらい、内容は毎年盛りだくさん。恒例

のものとしては、手洗い実習や血圧測定、酸素飽和度測定、ストレッチャー試乗体験、管理栄養士の話、採血体験などがあります。



さらには今回は、看護部主体で開催していたこれまでに代わり、多職種との協力体制により「新しい発想で次の世代へのバトン渡し」を目標に計画。看護だけではなく他の職種の仕事も知

連絡会は内田絵梨産婦人科医長、伊藤和美助産師を中心に進行



助産師やMSWから寄せられた「気になる妊婦」事例を記載した資料が配布され、それを元に話し合いが進められる

にフォローする体制をとっています。
小児虐待は発生させない
核家族化の進行もあり「子育ての孤立化」が問題視されていますが、特にここ数年はコロナ禍の影響で育児環境が外から見えづらく、問題が顕在化しにくい状況にあります。

当院は「気になる妊婦連絡会」を定期的に開催することで、特定妊婦や「気になる妊婦」だけではなく、すべての親子が健やかに生活できるように地域と連携し、支援が必要な方々に支援が行き届く体制づくりに携わっています。
今後も「小児虐待は発生させない」という意識込みで、多職種・地域との連携を軸に取り組みを続けていきます。



各事例についての情報共有に続いて、多職種の視点での意見交換や、それぞれのサポート方法を検討する時間が設けられる

あなたの写真が カレンダーに!?



【大好評のため、今年も実施します!!】
11月号までに掲載された記事の中で、良い表情をとらえた写真が対象

機関誌「済生」に載った写真の中から編集部が厳選、カレンダーにしてプレゼント! カレンダーのサイズは、済生会の「なでしこの花カレンダー」と同様です。当選者は本誌にて発表します。応募の詳細は【撮影】大きく引き延ばすので正確なピントと適切な露出に【構図】横。画面に撮影の日付が入っているものは審査対象外【写真の規格】写真はデジタルデータに限り、サイズは1MB以上【送付方法】いつも通り、原稿と写真をセットにして本部広報室・下記メールアドレス宛に送ってください。写真のデータ量が大きい場合は大容量ファイルで送ってください【参加資格】本会支部・施設の職員

koho@saiseikai.or.jp

今年もやります!!



最後はマスクを外し、参加した12人全員とスタッフで記念撮影。キラキラな笑顔が素敵!



ふれあい看護体験に参加した高校生が通う総社南高等学校での「看護の出勤講座」。講師は森総看護師長

の意見交換も行なわれ、とても盛り上がりました。「専門学校と大学進学どちらがよいでしょうか」「看護師の仕事は楽しいですか」「看護師になるための勉強方法は」など高校生から積極的な質問が飛び出し、楽しい笑い声が絶えず響いていました。最後はマスクを外し、カメラに向かって全員が笑顔で記念撮影。その笑顔がとても素敵で、今回の企画が成功だったと実感できる瞬間でした。

「看護師になりたい気持ちが強くなった」「将来の職業選択について大変役に立った」「とても楽しかった」などたくさんうれしいコメントも。職員からも「高校生の笑顔を見ることができてよかった」「高校生と一緒に楽しい時間を過ごせた」との声があり、来年はさらにパワーアップした内容で高校生を迎えたいという思いが生まれました。

地域に親しまれ 信頼される病院として

後日、ふれあい看護体験に参加した学生が通う総社南高等学校で「看護の出勤講座」が開催され、森真須美総看護師長が講師として参加。看護の仕事の役割や進路について話し、質疑応答ではD.M.A.T隊員になりたい、救急センターで働きたい、離島で看護がしたいなど、さまざま



【左】臨床工学技士が透析で使用する針について説明を行なう。真剣な眼差しで高校生【右】コーヒー牛乳を使った透析分離実験。人間の血液に見立てたコーヒー牛乳は透析装置によって分離され、どうなる?

な意見が飛び交いました。今後は看護に加え、院内のさまざまな職種を若い世代に知ってもらおう「職場体験」を計画しています。11月には近隣の中学校2校の受け入れを予定しており、企画メンバーを現在募集中。スタッフの力を集結して医療と看護の魅力を伝えることで、将来を担う学生の夢を育むお手伝いができればと思います。



透析分離実験のブースでは、手作りの紙芝居により、臨床工学技士の仕事内容や透析装置の役割を説明

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を策定しました。
無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。
だれも排除されないまちづくりを目指し、
全支部・施設が1696事業を展開します。

更生保護施設の

健診事業を再開

〈三重〉松阪総合病院

当院なでしこプランの一環として、津市にある県内唯一の更生保護施設「上弁財荘」で健診事業を6月4日に行ないました。コロナ禍により活動休止とした令和元年9月以来の実施となります。

当日は病院長、健診センター看護師長、検査技師、事務職員3人が参加。受診する3人の受付後、身長・



体重・腹囲測定、血圧測定、血液検査、尿検査、心電図検査の順に行ない、最後は病院長による内科診察を実施。結果は後日郵送します。

会場は終始落ち着いた雰囲気。事前に控えていた受診者からの「おはようございます」の緊張している挨拶と、丁寧な受け答えが印象的でした。

済生会は、どんな人も排除されない地域づくりを目指し、取り組んでいます。入居者のみなさんの明るい未来を、全力で応援していきたいと思えます。

今後も6月と12月の年2回の開催を予定しています。
(地域包括・診療支援センター M S W 奥村裕司)

全国済生会刑余者等支援推進協議会

インクルーシブ社会の実現を目指して 刑余者支援の必要性を再認識

第14回全国済生会刑余者等支援推進協議会が、7月13日に済生会本部で開催されました。ハイブリッド開催となり、現地15

人、オンラインで18人が参加しました。開催にあたり炭谷茂理事長から、インクルーシブ社会の実現を目指す上で刑余者支援の必要性が今後ますます求められていくと説明され、一同身の引き締まる思いを持ちました。会議では、協議会のこれまでの活動内容の振り返りと共有を目的として、森川篤会長から「全国済生会刑余者等支援推進協議会の目指す方向性について」と題して発表がありました。

また、篠原栄二顧問が協議会のこれまでの歩みや矯正施設見学の様子、法務省矯正局やコレワーク（矯正就労支援情報



センター）との連携等の重要性について発表。

そのほか、各施設での活動報告や今後について意見交換が行なわれ、大変有意義な会議となりました。
(奈良病院 経理課 友田達郎)

ソーシャルインクルージョン 推進室を設置

北海道済生会

北海道済生会では、小樽ベイシティ開発と連携し、双方の資源を生かしたソーシャルインクルージョンのまちづくり「ウェルネスタウン構想」事業を展開しています。こうした取り組みを一層推進するため、6月1日支部事務局内に「ソーシャルインクルージョン推進室」を設置しました。



社会的に弱い立場にある人々を含む、すべての人を地域社会で受け入れ、共に生きていく——済生会の掲げるソーシャルインクルージョンの考え方は、これからの日本に必要不可欠です。

当推進室は、北海道済生会が今後も企業価値と持続可能性を高め続けるためのかじ取りを担当。社会課題に対し、経営陣や施設・事業所さらには企業等と連携しながら解決策を追求し、当会の歩むべき方向性を考えます。また、これらの活動を内外に広報し、ブランド構築のための活動も担います。
(ソーシャルインクルージョン推進室長 清水雅成)

〈長野〉佐久市特養シルバードきしの

子どもたちの居場所をつくる 「きしのの夏休み」

当施設は8月7～10日、ソーシャルインクルージョンの活動の一環として「きしのの夏休み」を実施し、延べ23人の利用がありました。この取り組みは、夏休みに家に一人にいる子どもたちの居場所づくりを目的としています。

コロナ禍で3年間延期となっていました。今回は感染症予防のため受け入れを1日5～6人に限定して再開しました。学習場所や交流の場の提供に加え、車椅子清掃など介護に関する環

境整備のお手伝い経験も内容に盛り込みました。

中・高校生は静かで涼しい多目的室で自習。小学生は夏休みの宿題の図画工作などを各自のペースで進めながら、地域交流室でのんびり過ごしてもらいま

した。最終日には皆でスイカ割りを行ない、楽しく盛り上がりました。
参加者からは「涼しい場所で勉強ができて、はかどった」「図書館は混んでいるのでありがたい」「車椅子を初めて触った」「学校で告知したら参加人数が増えると思う」などの感想や提案をいただきました。
(済生記者 山浦裕子)



富山病院・高岡病院合同で 無料低額診療事業を広報

富山病院

市町村・地区民生委員児童委員会長研修会が富山市内で7月6日に開催され、当院の中川妙子医療福祉相談室長補佐（MSW）と高岡病院の若山優子医療社会事業課長補佐（MSW）が参加。無料低額診療事業について広報活動を行いました。

2病院合同での広報活動は初の試みでしたが、共同して取り組むことで、より多くの方々に



済生会の使命やそれぞれの病院の取り組みを知ってもらうことができました。

会の終了後、「自分の地区に無低事業のポスターを貼りたい」「このケースは無低事業の対象になるのか」など多数のご意見やご質問をいただき、関心の高さがうかがえました。

（医療福祉相談室 中川妙子）



イオンモールウォーキング 4年ぶりの開催

〈富山〉高岡病院

当院はイオンモール高岡と「未来に向けた持続可能なまちづくり協定」を締結しています。6月30日、イオンモール高岡で4年ぶりに「イオンモールウォーキング」が開催され、当院が講師を担当しました。

久しぶりの開催のためか参加者は16人と少なめウォーキングのフォームや効果、注意点などを講義した後、自分に合った運動負荷量を理解してもらったため、心拍数をウォーキング前後で測定してもらいました。

参加者のみなさんは約1キロのウォーキングコースを自分のペースで最後までウォーキングしました。

今後もイオンモール高岡と協働して地域の方々に健康づくりに関する情報発信をして役立ててもらえればと考えています。

（リハビリテーション療法部 理学療法士 長井貴弘）



フードバンクへ食糧支援

旧ユニホームも

〈三重〉明和病院



7月3日から14日まで、職員から食糧等の寄付を募り、19日にフードバンクISE、20日にフードバンク松阪へ届けました。フードバンク松阪では、行政機関や居宅介護支援事業所からの生活困窮者への配布依頼に基づき面接をした上で食糧品等を配布。食糧支援は食品ロスを減らすことにもつながります。

当院で6回目の実施となった今回の食糧支援事業では、食糧品が509点集まりました。たまたま職員のユニホーム変更の



等へ配布される予定です。今後も食糧品等を必要としている人に届けることができるよう、定期的に食糧支援事業を実施していきます。

（医療社会事業課 古田まどか）

「全ての人に気持ちよく利用してほしい」 男性用トイレにサニタリーボックス

〈大阪〉吹田病院

この度当院では、男性用トイレにサニタリーボックスを新たに設置し、女性用トイレ内でも

時期と重なったため、変更前の未使用分62着も一緒に届けました。自宅を着る服がない高齢者

見直しを行ないました。

近年、高齢男性におむつや尿漏れパッドを使用する人が増えています。男性用トイレ

へのサニタリーボックスの設置は、災害対策やトランスジェンダーへの配慮からも望まれるようになりしました。

ボックスの設置に気づきやすいように、また利用しやすいようにトイレ入り口や個室のドアにサインを準備。ボックスの蓋にはイラストを貼りました。また、院内の委員会やWGでサイズ、材質や開閉の仕方などボックスの仕様を水平展開し、誰もが困らず、気持ちよく利用できるトイレを目指しました。

ソーシャルインクルージョンに基づく誰一人取り残さないまちづくり、そしてSDGsの目標



達成のために少しでも貢献できるような、できることから職員皆で取り組んでいきます。

（多様な性のあり方を考えるワーキンググループ／患者サービス委員会 岡利悟志）



1日保護観察所長が来訪 刑余者支援への理解を深める

大分地域生活定着支援センター

法務省主唱の「社会を明るくする運動」の一環で1日保護観察所長に任命された大分県中津市の奥塚正典市長が、7月6日に当センターに来所しました。奥塚市長は、当方が説明する刑余者支援の現状や課題に熱心に耳を傾け、済生会日田病院が運営母体である当センターが充実した支援体制を確保できていることや、刑事司法・医療福祉関係機関との円滑な連携による支援体制が構築できていること



熊本病院

イオン熊本で親子参加型の救命救急体験イベント



8月4日、イオンモール熊本で子ども向けの救命救急体験イベントを開催し、年少から高校生までを対象に、保護者を含め82人が参加しました。当日は当院から医師2人、看護師4人、救急救命士1人が参加。ミニ講義「人が倒れていたらどうする？」の後、人形を使った心臓マッサージ体験や、AED使用法のレクチャーを行いました。

に感心されました。今年の運動のテーマは、「生きづらさを生きていく」。犯罪や非行を行なう人たちの多くは何かの「生きづらさ」を抱えており、地域社会で暮らす一人ひとりがこの「生きづらさ」を理解する必要があります。この運動によって刑余者支援についての理解が進み、誰もが暮らしやすい地域づくりのきっかけになることを望みます。

(相談員 杉尾美知果)

また、夏休みの思い出として、白衣や聴診器を身に付けて医師になりきってもらい、記念撮影会を開きました。参加した子どもたちからは「友だちが倒れたとき、救急車がかかるまでやらずにやらないことがわかった」「学校にあるAEDの使い方がわからなかったのを知ることができてよかった」などの感想がありました。

(済生記者 東 賢剛)

イオン筑紫野でお仕事体験イベント

子どもたちのチャレンジをサポート



看護師のお仕事体験コーナーは看護師2人が担当。子どもたちは真剣な顔で血圧測定、傷の処置の体験を行いました。イベント終了後は当院のキャラクターパネルの前で、

〈福岡〉二日市病院

当院は8月6日、イオンモール筑紫野で開催されたお仕事体験「キッズドリームチャレンジ」に参加し、18のお仕事の中から医師と看護師を担当。計36人の子どもたちのチャレンジをサポートしました。医師のお仕事コーナーは末安禎子副院長と研修医2人が担当。BLS（二次救命措置）の体験ではAEDの使い方などを学び、聴診器の体験では体の部位によって聞こえる音の違いを実際に聞いてもらいました。腹腔鏡下手術の体験ではモニターを見ながら鉗子を使いお菓子のつかみ取りに挑戦しました。



医師や看護師と記念撮影。今回のお仕事体験をきっかけに医療に少しでも興味を持ってもらい、将来の医療従事者になってもらえればいいと思います。

(済生記者 久富大史)

〈富山〉高岡病院

イオン高岡で病院のお仕事体験イベント

「未来に向けた持続可能なまちづくり協定」に基づく事業の一環で、8月5日、未就学児から小学生を対象とした病院のお仕事体験イベントをイオンモール高岡で開催しました。当日は、開始時間前から行列ができる大盛況。140人近い



子どもたちが、楽しそうに酸素マスクをつけての呼吸や、松葉杖や車椅子を使用した歩行体験



て皿にビーズを移すゲーム、葉に見立てたチョコやラムネを分包機で調剤する体験、CT撮影画像から立体画像を作成する体験。皆夢中で取り組んでいました。将来看護師になりたいと話す女の子は、白衣に着替えての写真撮影に大満足の様子でした。

(総務課主事 奥田美紀)

などの各コーナーをまわっていました。なかでも人気は、トレーニング用の腹腔鏡マシンを使っ

第21回全国済生会在宅サービス協議会報告

心通い合う在宅サービスを目指して

会長（唐津医療福祉センター長） 園田孝志

全国済生会在宅サービス協議会が、7月22日に和歌山市で開催されました。4年ぶりに集合形式での開催となり、「心（こころ）通い合う在宅サービスを目指して」を全体テーマに、117事業所から206人が参加しました。

総会に続き、伊藤秀一・和歌山県済生会支部長兼有田医療福祉センター総長が「突発的危機管理への対応」と題して特別講演。のちに「和歌山方式」と呼ばれた日本初のコロナ院内感染



発生時の対応等についてお話いただき、危機管理の重要性を改めて認識しました。その後、五つの部会が開かれ、全体テーマに沿った熱心な討議が行なわれました。部会終了後には各部会長から報告があり、地域との連携の必要性を再確認しました。担当していただいた和歌山県済生会のみなさまには、大変お世話になりました。次回は（大阪）野江病院の担当で、令和6年7月13日に大阪市で開催予定です。

訪問看護ステーション部会 在宅療養最前線のリーダーとして

〈千葉〉済生会ならしの訪問看護ステーション 所長 加藤晴子

「災害看護」継続した在宅療養を目指して」をテーマに、40事業所から54人が参加。

事前アンケートの結果報告に続いて、5事業所から災害体験、防災士の資格を持つ管理者から災害対策の発表がありました。また、災害への課題と取り

組みについて活発な意見交換も行なわれました。

災害発生時には自分たちの安全を優先しなくてはなりません。利用者宅に行くべきかどうか、訪問看護師は究極の選択を迫られます。管理者はスタッフの命を守るため、行かない選択

地域包括・在宅介護支援センター部会 情報共有や連携の必要性を確認

〈東京〉港区立南麻布地域包括支援センター 社会福祉士

佐藤志穂子

多職種連携をテーマに、17人が参加しました。

事前アンケートの結果報告では、医療機関との連携の難しさや面談時間の調整での苦労、またそれらについての対応の工夫が見受けられました。

その後は、高額当選詐欺の事例について検討。未然に防ぐには地域での啓発活動や、地域



をする勇氣も必要です。

利用者やその家族が自分で身を守るよう、日頃からセルフケア能力を高める支援が重要です。また、地域の事業所や自治体と話し合うことの大切さを改めて学びました。

今後もステーション間の連携を深め、済生会訪問看護の力を発揮できるよう努めていきます。



の詐欺情報の収集が必要であること、また被害にあった方への迅速な対応には医療機関や警察、地域の連携が必須であること等の意見が交換されました。

業務内容が地域に周知される一方で、業務量の拡大も話題となりました。今後も地域包括支援センターに求められる課題

居宅介護支援事業所部会 災害に備えることの重要性を再認識

〈愛媛〉今治指定居宅介護支援事業所さいせい 管理者 中村一人

「災害に備えて利用者の生活を考える」をテーマに、28施設から33人が参加。（和歌山）有田居宅介護支援事業所の吉田真由氏がBCPの策定状況や災害対応のアンケート結果を報告し、（広島）居宅支援事業所さいせい谷川真氏から西日本豪雨災害での被災経験の発表がありました。



各地の情報共有や連携を図っていく必要性も確認できました。

その後は「災害前の準備」に

焦点を絞り、災害時の利用者支援を担うケアマネジャーとしてできる備えや必要な準備について話し合いました。紙ベースでの名簿作成・更新、年2回の訓練の実施、避難経路の事前確認等さまざまな意見が聞かれました。さらに、多職種連携に加え、

同職種連携でケアマネジャー同士、横のつながりを生かした対応も有効だったと被災経験地域から報告がありました。

ケアマネジャーとして特に災害後の準備・災害後の生活支援が重要であることを再確認しました。



訪問介護事業所部会 対面協議の利点を生かして白熱の情報交換

〈埼玉〉済生会ケアステーション

なでしこ 管理者 福田亜希

「心通い合う在宅サービスのためにできること」をテーマに、11施設から13人が参加。事前アンケート結果も含めた検討にて、人材や運営に関わる課題点を

中心に意見・情報交換を行ない、時間が瞬く間に過ぎたと感じるほど白熱しました。

人材については、確保と育成に困難さを感じる事業所が多く、具体的な確保や研修方法を共有。現在の採用方法を継続しつつ、訪問介護の魅力を見直しして発信するなど、ポジティブな姿勢

通所介護・通所リハビリ部会 今回の学びが実践に役立つように

〈和歌山〉介護老人保健施設ライフケア有田 介護係長 奥林浩司

「災害や非常事態に備えて私たちが今できること」をテーマに、38人が参加。

介護老人保健施設ライフケア有田の池本英司施設長による「ToT

介護ロボットケアアシストサイネージによる認知症デジタルリハビリテーション」の特別講演に続いて、災害対策についてグループディスカッションを行ないました。

施設によってはなかなか対策等が進んでいないという意見もある一方で、利用者やスタッフによる合同での避難訓練や、家族も一緒に参加する炊き出し訓練など、より実践に近い訓練を行なっている施設もあることが



印象に残りました。

それぞれの施設の地域性や立地条件、非常時のハード面等により優先課題や対策の内容も変わりますが、今回の交流での学びを各施設での災害対策に一つでも役立てていただければ幸いです。

福地桃子

大河ドラマ

『鎌倉殿の13人』で

北条泰時の妻・初役を

演じるなど、活躍目覚ましい

若手女優の一人。

初舞台『橋からの眺め』を控え、

観客の前で生の芝居を

することについて、

現在の心境を聞きました。

また、演出陣に言われて

今も大切にしている

言葉とは？



Vol. 160

「頑固は悪いことじゃない」と、
教えてもらって気持ちになりました

Text: みやじまなおみ
Photos: 安友康博

Hair & Make-up: 秋鹿裕子 (W)
Styling: ゴトウカナエ

人気のNHK朝ドラ、大河ドラマに出演し、世間の認知度が急上昇中。「作品、共演者に恵まれている」と謙遜しつつも、「いただいた脚本を自分の身体を使ってどう表現するか、現場で話し合いながらいていねいにつくり上げていきました」と充足感をにじませる。朝ドラオーディションでは、「とても頑固

だね。でも、この役をやってもらう意味がそこにある」と評される合格。「これまでも何度となく言われ、自覚もしていただけに、頑固＝悪いと決めつけていました。もちろん一方的に我を通すのはダメ。でも、短所として矯正する努力は今はいらないのかもしれない、すごくうれ

しかった思い出があります」

腑に落ちないことをそのままにできない性格は、舞台『橋からの眺め』でも遺憾なく発揮されるに違いない。演出のジョー・ヒル＝ギビンズからは「この作品はとても有名な悲劇だけれど、登場人物たち自身は、誰一人悲劇だと思っていない。役として良い方向へ向くように歩いて行く気持ちを最後まで持っていてほしい」と言われたそう。「私はその言葉を

「役の人生を真剣に生きる」と受け取りました。舞台作品は初めてですが、心を開放して臨みたいと思っています」

家では料理が気分転換になっ

てか。「とにかく野菜を刻むのが好き

(笑)。最近はチヂミ作りに挑戦してい

ます。旅行も自由にな

るようになったので、いろいろな場所に行き美味しいものを

食べたいです」



ふくち・ももこ 1997年生まれ、東京都出身。2019年、NHK連続テレビ小説「なつぞら」で夕見子役を演じ注目を集めた。近年の主な出演作に、映画『あの娘は知らない』『サバカン SABAKAN』(22)、『あの日のオルガン』(19)、ドラマ『家族だから愛したんじゃないで、愛したのが家族だった』(23・NHK BSプレミアム)、『それってバクリじゃないですか?』(23・NTV)、『舞妓さんちのまかないさん』(23・Netflix)、大河ドラマ『鎌倉殿の13人』(22・NHK)など。今後も複数の作品への出演を予定している。

舞台『橋からの眺め』

イタリア系アメリカ人の港湾労働者エディは、妻と17歳になる最愛の姪キャサリンとの3人暮らし。幼くして孤児となった姪を引き取り、ひたすら幸せを願って育ててきた。そこへ妻の従兄弟マルコとロドルフォが同郷から出稼ぎ目的で密入国してくる。最初はエディも歓迎するが、キャサリンが色男ロドルフォに徐々に惹かれていくようになると態度が豹変。自分の気持ちを抑えきれなくなったエディがとった最後の手段とは……

■作: アーサー・ミラー 翻訳: 広田敦郎 ■演出: ジョー・ヒル＝ギビンズ

■出演: 伊藤英明、坂井真紀、福地桃子、松島庄汰、和田正人、高橋克実

《東京公演》9月2日(土)～9月24日(日) 東京芸術劇場 プレイハウス

《北九州》10月1日(日) J:COM 北九州芸術劇場 大ホール、《広島》10月4日(水) JMS 阿

ステールプラザ 大ホール、《京都》10月14日(土)・15日(日) 京都劇場



口福につぼん

吉井省一

今月はそんな琉球料理の代表的な品々が味わえる、理想的な詰め合わせをご紹介します。沖縄の太陽と波音を思い浮かべながら、ひとときお楽しみください。

もてなしの心を宿す
琉球独自の食文化



济生会支部未設置県

よしい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

未設置県の逸品

济生会は2023年度からスタートした「第3期中期事業計画」で支部未設置県の支部設立(復活)をビジョンに掲げています。

口福につぼんでは今月号から済生会支部未設置の青森・秋田・山梨・岐阜・徳島・高知・沖縄の7県を紹介。第一弾は沖縄県です。

8月11日、私がアンバサダーを務めている「山の日」の、第7回全国大会が沖縄県で開催されました。私も会場に赴き、作詩した制定記念曲「山はふるさと」を沖縄の子どもたちが声高らかに歌い上げたときは、感動

の涙がこみ上げてきました。そして、久しぶりに琉球料理を堪能。8月中旬の暑い盛り、食欲をかきたててくれる素材と味付けのおかげで、元気の素をたっぷりチャージできました。



店内はバリアフリー対応で、車椅子、ベビーカーでの利用も可能。プロの踊り手の演舞が生で鑑賞できる

代に外国からの客人をもてなした宮廷料理がルーツ。そのうちの代表的な7品を厳選しお取り寄せセットにしたのが、那覇市で創業49年目を迎える専門店

琉球料理7種類

味と踊りのうらしま 那覇市

「味と踊りの竜宮城 うらしま」です。ここでは、1日2回、プロの踊り手さんの琉球舞踊を生で鑑賞する

こともできます。選ばれた7品とは「みそらふてー(味噌煮豚)」「あしていびち(豚足)」「うむくじあんだーぎー(紅芋の揚げ物)」「くーぶいりちー(昆布の炒め煮)」「じゅーしー(炊き込みご飯)」「中味の吸物(豚もつのお吸い物)」「みみがー(豚耳皮)」「ピーナツ和え」。

なるほど「豚に始まり、豚に終わる」と言われる琉球料理だけあって、7種類中6種類が豚を使った料理です。日本で唯一、亜熱帯気候に属する沖縄の夏を乗り切ってきたウチナーン



南国情緒あふれる店の入り口。国際通りから徒歩10分、那覇空港からは車で15分で到着

チュ(沖縄の人)のパワーの源は、この豚肉にあるのかもしれない。

沖縄の料理名には独特な方言が入っています。たとえば「いりちー」は炒め煮、「あんだーぎー」は油で揚げたものを指します。こうしたネーミングが今回の料理にも統々と登場します。そちらもお楽しみに。

琉球料理を代表する品々で豚肉の旨さを再発見

それでは、まずはお店で一番人気の「みそらふてー」から。らふてーは一般的には醤油味のところ白味噌仕立てのたれでじっくり煮込んであるのが特徴で



品格のある漆器に盛り付ければ、宮廷料理の趣き [下部中央から、反時計回りに] ①みそらふてー ②あしていびち ③中味の吸物 ④うむくじあんだーぎー ⑤くーぶいりちー ⑥みみがーピーナツ和え ⑦じゅーしー

す。とろとろの柔らかい口当たり。肉の旨みがじゅわっとあふれ出し、ご飯にのせればらふてー井として楽しめます。

豚足を使った「あしていびち」は、これぞキング・オブ・コラーゲン。骨付きなので見た目のインパクトもあり、骨がほろほろ外れるほど柔らかく煮上げら

れた豚足は、プルプルの食感。「うむくじあんだーぎー」の「うむくじ」は芋くず(さつまいもでんぷん粉)のこと。蒸した紐芋と芋くず、タピオカ粉を練り合わせ油で揚げたもので、トースターで焼くと、外はサクッ、中はモチモチの食感が楽しめます。

これは何よりコリコリとした食感が魅力。お店オリジナルのピーナツ味のたれで、きゅうりや大根など野菜を加えて和え物にすると、さらに味わいが際立ちます。

こんな、旨いものアイランド沖縄を、次の旅行先リストに加えてみてはいかがでしょうか。

琉球料理7種類

[みそらふてー約150g、あしていびち約250g、うむくじあんだーぎー約50g、くーぶいりちー約100g、じゅーしー約200g、中味の吸物約250g、みみがーピーナツ和え約100g] 3,500円(税込・送料別)

お取り寄せ・お問い合わせは

味と踊りの竜宮城 うらしま (オンラインショップ: みそぶたや~)
〒900-0033 沖縄県那覇市久米2-10-6 2F
TEL: 098-861-1769 FAX: 098-868-9256
ホームページ: <https://urashimana.thebase.in>

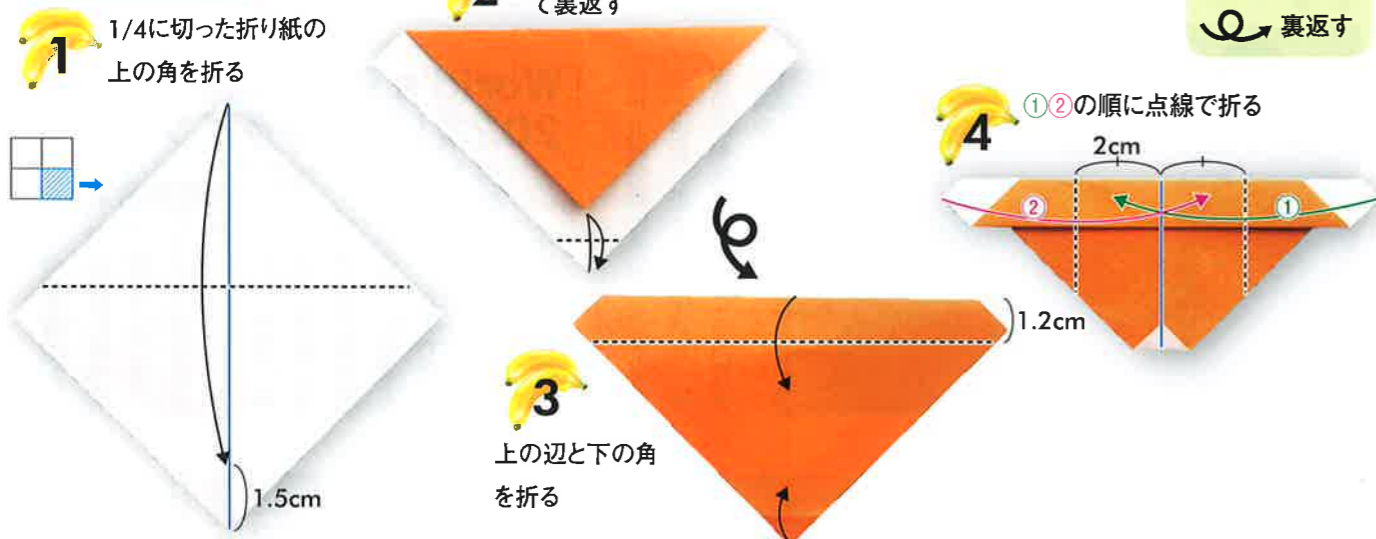




森でおさんぽ バンビちゃん♪



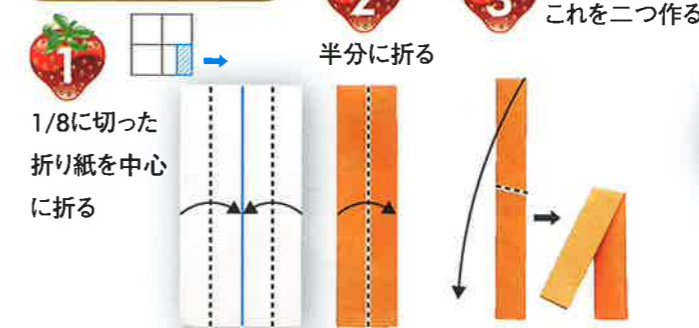
バンビ・顔



バンビ・体

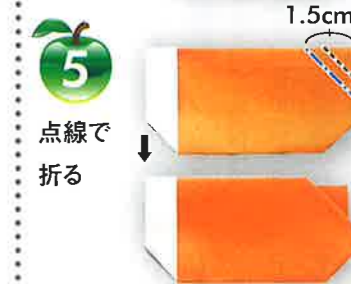


バンビ・あし

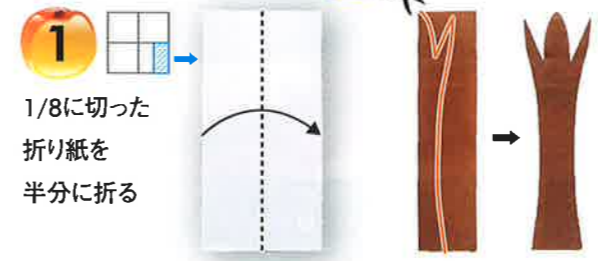


バンビ・完成

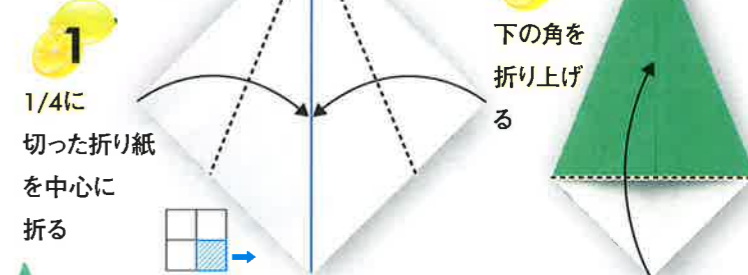
顔・体・あしを貼り合わせて、
背中に丸シール
をはる



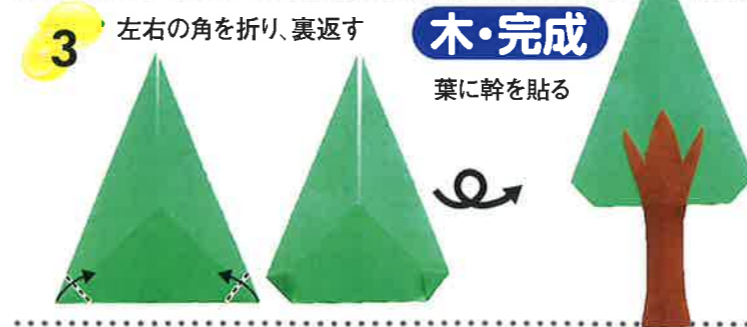
木・幹



木・葉



木・完成



木の実や花で
キュートに
飾ってね♡

絆リース

下の二次元バー
コードを読みとって、
作り方を見てね!



完成

リースに
バンビと
木を貼る



【いまいみさ】
手づくりおも
ちゃ作家。折
り紙や牛乳パ
ックなどをリサ
イクルして手づくりの楽しさを伝え
ています。著書に「365日たの
しい折り紙」(日東書院)、「12か
月のおりがみ壁飾り」(講談社)など
39冊。9月15日
から新刊「1年中
使える! 決定版
おりがみ図鑑」
(講談社)発売。動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ
おりがみ協力: 株式会社トヨー



全国で夏祭りににぎわいが戻ってきました。
福井県済生会病院(左上)、(山形)特養愛日荘(左下)、(愛媛)松山乳児保育園(右上)、(栃木)うつのみやなでしこ保育園(右下)

topics

「World's Best Hospitals 2023」にランクイン

福岡総合病院

世界中の医療専門家へのオンライン調査、患者満足度調査、臨床指標や医療の質などの品質保証調査といったデータソースに

米国 Newsweek 誌の病院ランキング「World's Best Hospitals 2023」が発表され、当院は19年の調査開始以来5年連続で選出されました。このランキングは、医師を中心とする

★「済生の心」を大切にしたチーム医療を行なっている結果なのでしょう。おめでとうございます。(本部広報室 杉山菜央)

後も引き続き選出されるよう、当院の理念である「地域社会の皆様や先生方に信頼され、真の満足をしていただける病院づくり」に皆で取り組んでいきたい」と笑顔でコメントしました。(経営企画課 新田 怜)

京都済生会病院

整理券発行アプリを独自開発

当院医事課の田口正晴課長が、受付待ち患者さんの整理に有効な「整理券発行アプリ」を独自に開発しました。この8月から運用を開始し、現在までトラブルはありません。



やワクチン接種などの受付、その他イベントなどへ活用範囲を広げていこうと考えています。(済生記者 白須優也)

エイジレス社会を目指して

富山県主催の「エイジレス社会活動実践塾」が7月26日に開講し、全8回のうち2回目の講義を、8月8日に当院が担当しました。

同塾は「エイジレス社会(生涯現役社会)」の実現のため地域社会の担い手を養成する実践的な講座で、今年度から炭谷茂

理事長が塾長を務めています。受講者は32人で、これから地域活動やボランティアに挑戦する意欲がある人や、すでに取り組んでいる人が参加しています。当日は「高齢者フレイルの予防と改善」をテーマに、当院の医師・管理栄養士・看護師・理学療法士が講師を担当。

摂食嚥下認定看護師の講義では「青い山脈」をパ・タ・カ・ラ音を意識しながら歌い、理学療法士の講義では動画を見ながら一緒に運動を行なうなど、実践も交え、フレイル予防への理



本アプリは、タブレット画面の整理券発券ボタンをタップするとレシートプリンタから整理券が連番で発券され、画面には発券されている番号が表示されるというシンプルなシステムです。「一番苦労したところはレシートプリンタの印刷制御で、メーカーに問い合わせながら試行錯誤し開発を進めました」と田口課長。ゼロからのスタートでしたが、チャットGPTの活用により1カ月ほどで完成しました。



解を深めてもらえるように工夫しました。(総務課副主幹 道前久枝)

地域の連携強化のために4年ぶりの交流会

日田市医師会主催の「済生会日田病院との医療連携に関する交流会」が、7月25日に開かれました。

12回目の開催で、コロナの影響で中止が続いたため4年ぶりです。日田市医師会・玖珠郡医師会・日田歯科医師会の先生方をはじめ、当院医師など89人が



参加しました。当院からは歯科口腔外科の中村芳明医師、消化器内科の膳所圭三医師、脳神経外科の中島慎治医師が発表を行いました。また、新任医師の紹介や名刺交換会もあり、日頃なかなか顔を合わせることでできない医療機関の先生方と交流できる有意義な場となりました。地域のヨコのつながりを大切に

に、より緊密な連携を確保し、日田玖珠地区のこれからの地域医療のために連携強化を深めていきます。(済生記者 石井 玲)

新機関紙「さいさば」で
認定看護師にフォーカス

〔埼玉〕加須病院

当院の認定看護師にフォーカスした機関紙「さいさば」を創刊しました。

現在、当院では8分野11人の認定看護師が活躍しています。その強みを生かし、何か情報発



信をできないかという思いから発刊に至りました。

タイトルの「さいさば」は、機関紙のコンセプトである「済生会が看護を通じて地域のみなさんをサポートする」に由来。みなさんに親しみを持ってもらえるネーミングにしました。

創刊号では、感染管理認定看護師の新井博美看護師が、新型コロナウイルスの「2類相当」と「5類」の違い、RSウイルスなどの時期外れの感染症について解説しています。

今後も定期的な発刊を目指しており、認定看護師の認知向上とともに、看護の知識を地域のみなさんに分かりやすく伝えることで、地域における看護の質向上につなげていきます。

（済生記者 蓬田絵里子）

（山口）下関総合病院

看護師を夢見て
一日看護体験

7月25日、県内の中学生19人を対象に「一日看護体験」を開催しました。

ワンピースの白衣に着替えた後、AED体験、手洗い体験、病棟見学を行いました。



AEDでの心肺蘇生は、ほとんどの学生が初めての体験。「貴重な体験ができ、命を預かる緊張感を感じた」との感想がありました。

病棟見学後は、病棟師長を囲んでミーティング。師長のこれまでの看護経験でやりがいを感じたこと、うれしかったことなど、貴重な体験談を聞くことができました。

最後に藤田恵看護部長が「看護師という職種ほど感謝される仕事はないと思います。患者さんにとって一瞬のことでも記憶

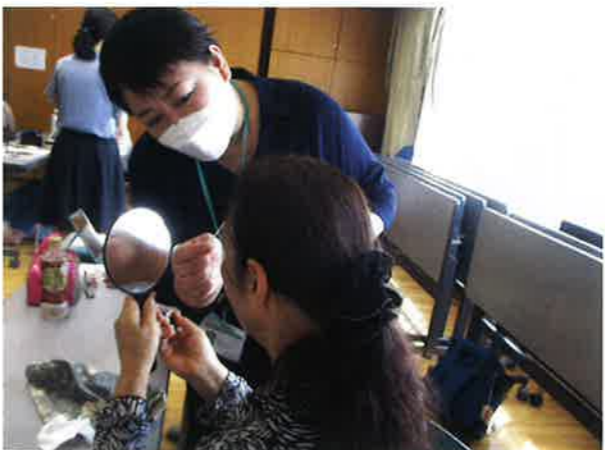
（神奈川）横浜市六浦
地域ケアプラザ

シニアメイクセミナーで
お肌も気持ちも軽やかに！

花王グループカスタマーマーケティング株式会社による地域貢献事業「好印象！ シニアメ

に残る仕事です。ぜひ当院と一緒に働きましょう」と熱いエールを送り、終了しました。

（副看護部長 首藤悦子）



イクセミナー」を、7月3日に当プラザで開催しました。当日は美しくなりたいと願う

27人が参加。受付の時点でみなさんニコニコと楽しさを隠せない様子でした。セミナーではビューティーカウンセラーが、洗顔方法、化粧水の付け方、メイクの仕方を参加者にわかりやすく教えてくれました。

メイクはただ顔をきれいにさせる、保護するためのものではありません。心が豊かになり、ポジティブな気持ちになれる魔法のようなものです。

参加者からは「心が明るくなった」「美しくなりたいのは永遠のテーマ」「メイクレッスンは二十歳のとき以来」などたくさん意見や感想をいただきました。

（済生記者 山田和恵）

子どもメディカルラリーで
救急・災害対応を学ぶ

岡山済生会総合病院

第7回岡山済生会子どもメディカルラリーを6月24日に開催し、岡山市内の小学5・6年生計10組30人が参加しました。子どもたちは午前中は心肺蘇生法

やAEDの操作方法など災害時の対応についての講習を受け、午後からチームごとに「心肺蘇生」「けがの応急処置」「災害避難」に挑戦。トランシーバーを使った上手な情報の伝え方や、腹腔鏡を体験するゲームで点数を競いました。

また、今回はサプライズゲストとして、マクドナルドのマスクットキャラクター・ドナルドが登場。病気の子どもに付き添う家族の滞在施設「ドナルド・マクドナルド・ハウス」の紹介や、楽しいクイズで会場を盛り上げてくれました。

参加者の一人は「いざという時には、正しい対応を考えてから行動できるようにしたい」と、しっかりとした口調で語りました。

（済生記者 高畑貴子）

新病院北棟の1年目点検

山口総合病院

7月21日、新病院北棟の1年目点検を実施しました。点検の目的は、昨年6月末の竣工後1年経過時点での品質劣化、建具の不具合、昇降機および設備機器の状況確認、その

他使用上の不具合や問題点を確認すること。設計者、施工者、病院の3者で行ないました。



当日は、建築班と電気・機械班の2班に分かれ、病室内やスタッフセンター、厨房などの屋内、屋上や外構などの屋外を約

1日かけて確認。各部署の指摘にはなかった項目の発見などもあり、とても有意義なものとなりました。

今回の点検では是正点等を今後取りまとめ、対策方法や時期を決定して対策を実施していく予定です。また、北棟での改善点を、今後建築予定の南棟に反映していきます。

（建築準備室 白井啓二）

CF初挑戦で目標達成 個人の支援目立つ

富山病院

当院は、県内の病院で初めてクラウドファンディング（CF）に挑戦し、7月31日をもって第1・第2目標金額を達成しました。

第1目標 800万円、第2



目標1000万円をクリアし、最終的には217人から1070万円を超えるご支援をいただくことができました。特筆すべきは個人からの支援が想像以上に多かったこと。見込みよりもはるかに早い段階で目標金額を達成でき、我々にとって大きな励みとなりました。

今回のCFでは、必要な資金を集める手段としてだけでなく、当院の医療の現状を発信する手段として地域へのPRを主眼に置いて取り組みました。当院窓口でのチラシ配布やデジタルサイネージ、ホームページを通じて、多くの地域の方々への応援や賛同をいただき、その成果に満足しています。

（経営企画室 坂本 茂）

〈山口〉下関総合病院

未来の医師の真剣な眼差しがキラリ

8月8日、当院で医療体験セミナーを開催し、医師を目指す下関市と北九州市の中学生2人、高校生12人が参加しました。

宅訪問管理栄養士の三輪花蓮さん。摂食嚥下障害をテーマに、「おいしく食事を楽しんでもらうにはどうすればよいか」について話しました。

当院の在宅訪問栄養指導は摂津市も対象地域としており、吹田市だけではなく摂津市への地域医療にも貢献していくことが目標です。

（栄養科長 山中美緒）

神奈川県病院

熱き商店街プロレスのリングドクターは牧先生

8月5日、近隣の六角橋商店街で催された商店街プロレスに、当院の牧秀則医師がリングドクターとして参加しました。

六角橋商店街プロレスは、恒例の人気イベント。神奈川県長官の紹介に続いて牧先生の名前がコールされ、リングが上がって挨拶すると、会場は大きな拍手に包まれました。

計5試合が行なわれ、幸いなことに熱中症や体調不良を訴える人はいませんでした。猛暑に負けず壮絶な戦いを繰り広げるプロレスラーたちを、熱い歓声が後押しします。中でも、最高



参加者は真新しいユニホームに身を包み、手術室の緊迫した現場や、アンギオ室や内視鏡室での実際の治療などの様子を見学。ロボット手術体験セミナーでは、「ダヴィンチ」のロボットアームの操作を体験しました。また、伊東博史副院長をはじめとした心臓血管外科医の細やかな説明を受けながら、実際のブタの心臓を使って大動脈弁置換術を行いました。

参加者からは、「医師への興味にさらに大きくなった」「実際に体験でき、実りがあった」などの言葉が聞かれました。

今回の試みにはNHKのテレビ取材もあり、医療関係者だけでなく地域からも大きな反響



最高齢レスラーのグレート小鹿(写真中央黒服)

齢プロレスラーのグレート小鹿（81歳）の試合は大声援の嵐に。迫力ある試合が繰り広げられ、リング真横で初めてプロレスを観戦した筆者にとっても大興奮の一日となりました。

（済生記者 小山友輝）

〈滋賀〉特養淡海荘

未来ノートの啓発活動

粟東市治田東学区の民生委員・児童委員協議会から依頼を受け、7月26日、「未来ノート」（エンディングノート）についての啓発活動を行いました。未来ノートは、自分の最期の

がありました。（済生記者 下村桂子）

〈大阪〉吹田病院

摂津市広報紙に記事記載

摂津市が発行する「広報せつつ8月号」に、当院の在宅訪問管理栄養士インタビュー記事が掲載されました。

当院は、隣接する摂津市と令和3年度に「相互の連携・協力に関する基本協定」を締結。本協定は、市民の健康増進と地域



医療体制の確保を図るため、摂津市と当院が相互に連携・協力して活動を進めていくことを目的としています。

今回、取材を受けたのは、在

過ごし方について、事前に家族と話し合っておくためのものです。医療現場で終末期の判断にご家族が大変困っている姿を目にしたことから、平成29年に粟東市地域看護連絡会のメンバーが中心となり作成しました。

当日は約40人の地域住民が参加。アンケートでは「よく理解できた」「これからの人生を考えるよいきっかけになった」といった、前向きな意見がありました。

今後、もしもの場合に本人の意見が尊重できるよう、啓発活動に力を注いでいきます。（粟東地域包括支援センター 永原 聡）



リング上で挨拶をする牧先生

topics



れ大盛況。子どもは聴診器や酸素飽和度測定器を使用してのドクター体験、大人はフレイルチェックや効果的な筋トレ体験などを行ないました。

フレイルチェックでは、片足立ちに「フラフラする」「できなくて悔しい、もう1回!!」と楽しんで挑戦する姿も。



**制度開始目前！
インボイス制度の研修会**

10月1日から開始されるインボイス制度に向け、8月16日、「消費税インボイス制度および

静岡県済生会

(済生記者 平川幸子)

聴診器体験では、子どもがお母さんの胸や腸の音を聴き「グルグル言ってる〜動いているみたいだね」とうれしそうに微笑み合っていました。

気温が30度を超えた蒸し暑い中での出展でしたが、よい体験ができたと感謝の言葉をいただきました。乗り越えることができました。

伊良林校区まつりに出展

長崎病院

7月22日、3年ぶりに開催された「伊良林校区まつり」に当院から看護師1人、理学療法士2人、事務員2人の計5人が参加しました。

ブース出展時間は2時間ほどでしたが、100人近くが訪



セラピードッグがやってきた

大阪整肢学院

8月9日、認定NPO法人アンビシャスからセラピードッグ9匹が当院にやってきました。

「わんちゃんはいつくる?」「よしよしするねん」と、朝から楽しみにしていた子どもたちでしたが、いざ対面すると、びっくりして職員の後ろに隠れてしまふ子、恐る恐る頭をなでる子と、初めての出来事にドキドキな様子でした。

スタッフから抱っこやなで方を優しく教えてもらい、徐々に触れるように。子どもたちが温かなぬくもりに触れ、強張った顔から笑顔に変わる瞬間を目の前で見て、当院の職員も一緒に笑顔になりました。

楽しい時間が過ぎ、セラピードッグが帰る背中を最後まで見送る子どもたち。「かわいい」「また会いたい」と弾むような



声と、夏の太陽にも負けないまぶしい笑顔がキラキラと輝いていました。

(訓練部 言語聴覚士 番城夏己)

「顔の見える」連携の場に

(福島) 川俣病院

7月25日、第7回済生会川俣病院地域医療連携懇話会を4年ぶりに集合形式で行ない、医療・介護・福祉関係者など約60人が参加しました。

渡辺浩志新院長、鈴木秀川俣町医師会長の挨拶に続き、第一部は当院の山中直人泌尿器科部長が泌尿器にまつわるメカニズムと治療法について講演。

(地域連携室 伊藤和代)



第二部は、地域におけるこれからの緩和ケアについて、緩和ケア認定看護師の菅野ひとみ病棟棟長が参加者に質問しながら会場参加型で進行。また、安斎洋之主任診療放射線技師が「地域医療のために診療放射線技師



した。コロナの5類移行を機に、以前のような夏祭りが行なえることを楽しみにしていましたが、県内の感染者数増加を考慮し、今年は各ユニット内で開催することにしました。

一番人気は屋台で、いつもは少食の利用者さんも全メニュー

ワイズコロナでの夏祭り

7月25日から28日までの4日間、四つのユニット(各21人)ごとの夏祭りを催しました。

この3年間、夏祭りは利用者さんを一人ずつ呼んでゲームを行なうなど、感染予防を優先させながら小規模で開催してきま

(済生記者 畑中利恵)

第44回 済生会 中・四国ブロック親善ソフトボール大会



済生会本部事務局 済生会のCFを紹介

7月18日、済生会本部高松宮記念基金・令和基金対策室の園田彰室長が、医療・介護の経営情報誌「日経ヘルスケア」の取材を受けました。



同誌8月号のレポート「活用進むクラウドファンディング(CF)」の編集者が済生会グループとREADYFORが連携して取り組んでいるさまざまなCFに興味を持ったことがきっかけです。済生会がREADYFORと業務提携するに至った経緯や、各施設のCF成功事例を紹介しました。園田室長は「CFを活用して、地域の方々から賛同や支援を得ていることを知る事例もあり、各施設で積極的に活用してみようという機運が生まれてきています」と語り、「地域への社会貢献をアピールするきっかけにもなります」とさらなる活用を勧めました。施設のみならず、CFの活用

を検討してみませんか？

(本部広報室 杉山菜央)

顔の見える関係づくり ――山口 豊浦病院

8月4日に豊浦金曜医会を開催し、地域の開業医と当院勤務医の計20人が参加しました。当会は豊浦地区の病診連携を深めることを目的とした懇親会で、平成22年から定期的に開催しています。

コロナ禍のため、今回の開催は4年ぶり。当院の村田康博薬剤部長の講話の後、会食をしながら



がら和やかな雰囲気の中で、日常診療での出来事や地域医療等について意見交換を行ないました。

また、8月10日には「第5回豊かなまちづくりセミナー」を開催し、地域の医療・介護関係者ら21人が参加。摂食・嚥下障害看護認定看護師の隅田敏和副看護師長が「体験しながら学ぼう誤嚥予防」と題した講義を行ないました。

当院は今後も積極的に「顔の見える関係づくり」に取り組み、地域連携に生かしていきます。

(済生記者 西田千鶴)

滋賀県病院 高校生1日看護体験

7月27日、当院で高校生1日看護体験を実施し、県内の高校2・3年生8人が参加しました。当日は看護部長の挨拶に始まり、入職1年目の看護師による職業選択の話や、病棟見学、車椅子・血圧測定体験、手術室での手術支援ロボット「ダヴィンチ」の見学や電気メス体験、さらには救命救急センターやドクターヘリの見学など盛りだくさん。体験を終えた学生からは「看

護師になりたい気持ちが高まった」「わかりやすく楽しい内容で貴重な経験になった」などの感想をいただきました。今回の体験が後押しとなり、将来当院で一緒に働ける日がくることを期待しています。

(済生記者 西澤真由美)

愛媛 松山病院 ソフト悲願の初優勝全国へ

6月25日、広島県呉市で5年ぶりに開催された「第44回済生会中・四国ブロック親善ソフトボール大会」において、当院は悲願の初優勝を果たしました。初戦は立ち上がり苦しい展開でしたが、投手の力投に打線が

応え7対2で勝利。決勝戦は試合の雰囲気にも飲まれることなく初戦の勢いそのまま8対1でゲームセット。11月に福岡県で開催される全国大会への出場を決めました。

当院が近年いちばん大事にしているのは「楽しむ」ということ。全国大会でも当院らしく、チーム全員が全力でソフトボールを楽しみ、一戦必勝で勝利目指して頑張ります。

(済生記者 酒井千夏)

福井 特養聖和園 大切なのは「待つこと」と「聴くこと」

7月22日、出前介護教室を大野市の阪谷公民館で開催し、30人近い住民が集まりました。

テーマは「認知症状のある方のこころの核心にふれる」です。難しい話ではなく、「認知症とは何か」というところから始め、実際に当園で行なっているケアの実演や、大野の方言クイズなどのレクリエーションも交えて進行。その流れで、当園職員が特に大切にしている「待つこと」と「聴くこと」の大切さも伝えました。



参加者からは「大変わかりやすく面白かった。家でも地域でも役立てていきたい」との感想が多く聞かれました。

阪谷地区のみなさんの、認知症に対する関心の高さ、そしてあなたかみも感じる事ができました、非常に有意義な時間となりました。

(済生記者 野尻 宗)

鳥取 境港総合病院 みなと祭に 救護担当として参加

7月23日、境港市で「第78回みなと祭」が開催され、当院から救護担当として4人の看護師



写真：境港商工会議所提供

が参加しました。日本有数の漁港として知られる境港。昭和21年に戦後の復興を祈願して始まったみなと祭りは、みこしパレード、大漁太鼓演奏が行なわれ、夜は花火大会でにぎわう夏の祭典です。今回はコロナ禍前とほぼ同じ形に近づけての開催となり、猛暑の中、2万5千人の人数があったとの報道もありました。お祭り広場に設置した救護ブースでは、熱中症症状などを訴える人に対応しました。

7月30日の「第32回境港ペーロン大会」にも、看護師1人が救護担当として参加。当院は今後も、地域活動への参加・協力を積極的に進めていきます。

(済生記者 亀尾美子)



〈奈良〉 御所病院
無料低額診療事業をPR

無料低額診療事業の周知をはかり、当院の魅力を地域に発信するため、7月22〜23日、「御所にぎわいマルシェ夏2023」に参加しました。

当院のブースでは、血圧・血



糖・SpO₂測定、健康チェック、栄養相談、無料低額診療事業についての広報活動を実施。計150人が来場しました。

アンケートでは「健康状態が知れてよかった」「気軽に受け

ることができ、親切な対応でうれしかった」といった意見がありました。

今回の来場者は30〜40代が多く、若い年齢層に済生会の無料低額診療事業をアピールすることができたと思います。

〈地域医療連携室 福井拓真〉

〈和歌山〉 特養潮光園

3人に15年勤務感謝状

全国老人福祉施設協議会表彰の発表が6月1日にあり、当園の看護責任者の陶山安佐子さん、介護副主任の素川一恵さん、同じく松本賀子さんに15年勤務感謝状が贈られました。

浦崎弘之施設長は、3人も受賞したことはとても意義深いと感想を述べた後、次のようにコメントしました。

「年間365日24時間体制での介護福祉業務は大変な仕事です。しかも、昨年12月に新築移転したばかりで新型コロナウイルスのクラスターとなりました。職員の力を結集して難局を乗り越えられたのは、みなさんの指導力の賜物です」

受賞者を代表して、陶山さんは「これまで各職種のスタッフ

地域を元気にしたいという思いから、今回はあえてサプライズ形式で実施しました。

岡山県済生会の山本和秀支部長が開会挨拶。続いて、職員が入居者さんの健康を祈願してデイスーパーズ手作りの神輿を担ぎ、入所者さんの周りを練り歩いた後、夜空に大輪の花を咲かせま



が所要所をきちんと担当してくれておかげです。スタッフのみなさんにこそ感謝いたします」と謝意を述べました。

〈事務所 山崎良彦〉

〈岡山〉 特養憩いの丘

サプライズ花火が
夜空を彩る

7月28日、中止していた打ち上げ花火を4年ぶりに行ない、約60人の入居者さんに楽しんでいただきました。

これまでコロナ禍で生活が制限されてきたうつぶんを晴らし、



約160発の花火に感激した入居者さんからは大歓声があり、来年も開催してほしいとの期待の声が多くありました。

〈済生記者 谷口栄一〉

見て！見て！見て！！

照明施設賞を受賞

〈大阪〉 富田林病院

一般社団法人照明学会が主催する「2023年照明施設賞」を当院が受賞しました。全国152施設が応募し、医療機関の受賞は4施設でした。

24時間稼働する地域の拠点病院として、夜間でも心理的安全性を与え、歩行帯などの動線に照度差をつけるなど安全性にも配慮して、医療に必要な機能を備えた照明計画が評価されました。

また、生体リズムに合わせた



調光調色システムの採用（新生児室）や、照明や自然光と調和させた内装など、人に寄り添った温かみのある一体的な空間となっていることなども受賞のポイントとなりました。

〈企画広報グループ 島崎寛将〉

〈神奈川〉 若草病院

地域でのCovid-19対策
支援活動について学会発表

7月20〜22日に開催された第38回日本環境感染学会総会・学術集会において、当院感染防止対策室の高橋幸子部長が演題発



表を行ないました。「地域におけるCovid-19対策支援活動について」と題してのポスター発表では、横浜金沢医療福祉センター各事業所に対して行ったCovid-19対策支援活動について紹介。

〈済生記者 高木裕子〉



topics



ることが肝要です。
当院では昨年リンクナースから「フィットテストインストラクター」が誕生。実際の装着方法や選択するマスクのアドバイスも積極的にできるようになりました。
当日は医師、看護師やリハビリ職員、検査技師など54人が参加。「初めてだが、こんなに苦

ストを実施しました。
COVID・19や結核、麻疹、ムンプスなどに対応する際は、通常のサージカルマスクでは不十分で、エアロゾル感染を防ぐN95の着用が必須となります。また、正しい装着方法に加え、空気の漏れ率を定量的に評価し、漏れ率0に近づける「自分に合った最適なN95」を知



〈埼玉〉川口総合病院 悲願のたたら流し踊り

7月29・30日、川口オートレース場で4年ぶりに通常規模で開催された川口市民の夏の一大イベント「たたら祭り」。来場者数は2日間合計で約30万3千人を数え、大変な熱気に包まれました。

29日の夕方に行なわれた「たたら流し踊り」には、佐藤雅彦病院長、名古屋恵子看護部長を先頭に、当院の職員・看護学生



総勢約60人が参加。

昨年新調したもののコロナによる中止で袖を通すことのなかったブルーの当院オリジナル法被を身にまとい、「たたらたたらららら」の歌に合わせて楽しく笑顔で踊り、練り歩きました。

「あつ、済生会病院だ！先生たちも踊っているの？」と沿道から声をかけていただいたり、お子さんが手を振ってくれたり。地域のみなさんとの交流を楽しみながら、元気もお届けできたと思います。
(済生記者 原 衣里奈)

〈愛媛〉今治病院 当院初の 特定行為研修修了看護師

手術室に勤務する建元美奈看護師が、術中麻酔管理領域パッケージの6区分8行為の研修を修了。当院初の特定行為研修修了看護師が誕生しました。

高齢化社会で多数の合併症を持つ患者さんの手術を安全に行なうためには、看護師にも高度な知識と技術が必要と考え、受講を志願した建元さん。勤務と研修の両立、コロナの影響によ



る研修の一時中断など、大変なことも多かったようですが、「挑戦して本当によかった」と笑顔で話してくれました。
今後は手術室内での術中の麻酔管理が主な業務になりますが、「将来的には術前外来を麻酔科医と行ない、患者さんの身体的なフォローだけではなく精神的な支えとなるような周術的な管理を提供したい」と抱負を述べました。
(済生記者 日野美華)

〈岩手〉北上済生会病院 最適なマスクを見つける N95フィットテスト

7月6日、メーカー協力のもと、N95（マスク）フィットテ

しいとは思わなかった」「コロナに対応している人の苦勞がわかった」など多くの感想も聞かれたと同時に、それぞれの「最適なN95」を見つけることができました。
(感染対策室 小原直子)

〈愛媛〉松山病院 消防と救急医療に係わる 症例検討会

7月14日、日頃当院へ救急搬送を行なっている松山・伊予・東温・久万高原町の消防隊員のみなさんと当院合同で、「救急医療に係わる症例検討会」を開きました。

今回取り上げた症例は、「誤嚥性肺炎」と「多発性外傷」の二つです。はじめに、患者が救急車で病院に到着するまでの経緯を、実際搬送した消防隊員が発表。続いて、担当した医師が、最終的な診断結果や当院を退院するまでの経過を説明しました。その後、質疑応答の時間を設け、意見交換を行いました。

コロナ禍で開催が見送られ、ようやく4年ぶりに開催が叶った症例検討会。救急医療に携わる者として、消防隊員のみなさん



んと病院との連携の大切さを改めて感じる事ができました。
(済生記者 酒井千夏)

山形済生病院 養護教諭研修会で 健康教育普及啓蒙活動

当院健康増進センターめぐみは、令和元年から県内の学校と連携し、児童生徒に向けた健康教育の啓蒙活動を行なっています。

その活動のつながりで養護教諭研修会から依頼があり、7月27日、「現代に多い身体不調（怪我予防を含む）」とそのセル



フケア方法について」をテーマに講義と実技を行ないました。講義では済生会ホームページの情報も活用。運動によって自分が自分の体を守るセルフコンディショニングの考え方を伝えました。実技では健康づくりも兼ね、ストレッチポールスター（円柱の棒状のもの）を使用した運動で、コア（体幹）のリラクゼーションを行ないました。
引き続き、職種の垣根を越え先生方と一緒に、子どもたちの「今」と「未来」の健康を見据えた健康教育普及啓蒙活動に尽力していきます。
(健康運動指導士 伊藤 貢)

〈茨城〉 神栖済生会病院
観測隊の一員として南極へ

当院と関係のある日本医科大学千葉北総病院の小田有哉医師が、国立極地研究所による第65次南極地域観測隊（越冬隊）の医療担当に選ばれました。

令和3年度は内科常勤医として、4年度からは非常勤医として



て当院に勤務されていた小田先生。これに伴い、当院での勤務はいったん終了となります。6月28日、出発のあいさつをいただきました。

「何かあったら自分がすべて対応しなければならぬ緊張感がありますが、医師としての私の仕事は少ない方が観測隊には良い状況なので、そのように願っています。設営の手伝いなども精いっぱい頑

張ってきます」

今年11月に日本を出国したのち、12月25日に南極へ上陸する予定とのこと。当院からは南極のお供にと、YUYA ODAと名入れをした保温機能付きタンブラーを壮行の品として贈りました。

（済生記者 江口裕紀）

福井県済生会病院

縁日「ごっこ」でお祭り気分

院内保育所「ぼっかぼか園」で8月8日、31人の子どもたちが「縁日「ごっこ」を楽しみました。朝から浴衣や甚平を着てすっかりお祭り気分の子どもたち。



エビやカニになりきって「エビカニクス音頭」を踊ったり、お祭りの絵本を見て楽しんだ後、待ちに待ったお祭り会場へ。

音楽に合わせて太鼓をたたいて楽しむ子、アンパンマンのパン屋さんでは「どのパンにしようかな」と迷いながら、トンぐでつかんでうれしそうに見せてくれる子もいました。

金魚くじのお店では、磁石が付いた大型のボーイを操って、真剣な表情で金魚を引き寄せていました。

最後はフォトスポットで記念撮影。カバンいっぱいになった景品を持って、お祭りを満喫した様子でした。

（保育士 今村香菜）

〈大阪〉 中津病院

4年ぶりの
ふれあい看護体験

7月29日、8月3日の2日間、当院で4年ぶりに「ふれあい看護体験」（大阪府看護協会開催）を実施し、高校生10人が参加しました。

看護師のユニホームに着替え、まずは病棟でスタッフと一緒に患者さんのものに行き、バイタ



ルサイン測定や血糖値測定等の様子を見学。患者さんとスタッフのやりとりを真剣な眼差しで見つめていました。

その後は車椅子体験、手術室やCCU、カテ室、救急室など病院内の見学が続いて、人形の「いっちゃん」の沐浴体験を行ないました。人形とはいえ本当の赤ちゃんと同じ体重で「思っているより重くて大変だった」と口をそろえていました。

最後に看護師を交え座談会。「不安もあるが、看護師になりたいと改めて思った」と言ってくれる生徒さんもありました。

（済生記者 鈴木亜希乃）

〈山口〉 豊浦病院

下関カッターレースに参戦

当院部活動のTCC（豊浦カッターチーム）は、7月16日、4年ぶりに開催された下関カッターレースに多職種メンバーで参加しました。

このレースでは、艇長、艇指揮、漕ぎ手6人の計8人が協力して往復360メートルのタイムを競います。

メンバーの半数が未経験者という状況の中、予選では緊張のため漕ぐタイミングが合わずに敗退。しかし敗者復活戦で

は、メンバー全員の息が合ったパフォーマンスを発揮し、予選より40秒もタイムを縮めて準決勝に歩を進めました。

準決勝は優勝候補との対戦で勝ち進むことはできませんでしたが、チームの絆が深まった一日となりました。日々の業務にもこの団結力を生かしたいと思います。

なお、大会本部の要請に基づき当院看護師2人を救護班として派遣。熱中症者などに適切な救護対応を行ないました。

（看護師長 林 勝利）

〈奈良〉 御所病院
BCPPの必要性を
再認識

済生会本部の奥野史寛危機管理専門員を講師に迎え、7月18日に「災害対応研修」を実施しました。

今回のテーマは「大規模災害とBCPPの必要性」。中山正一郎院長はじめ、所属長を中心



講しました。

奈良県は災害が少ないといわれ、職員の災害に対する意識も薄いところがありました。研修を通して災害医療について、また災害時の情報の重要性などが認識できました。受講者からは「災害訓練をしつかり行ないたい」など前向きな意見が多くありました。

当院はBCPPがまだ策定できていませんが、策定に向け全部署が協力して意見を出し合い、災害発生時には各自の役割を十分理解できるものを作りたいと考えています。

（事務部長 田中 隆）



静岡済生会総合病院
世界肝炎デーに合わせて
肝炎啓発イベント



7月19日、世界肝炎デーに合わせて肝炎の啓発イベントを当院正面玄関で開催しました。
当日はスタッフが来院した人に、肝炎のイラスト入りの特製手ぬぐいを配布。日本肝臓学会主催の市民公開講座の案内や、肝炎ウイルス検査の受診を呼びかけました。
手ぬぐいを受け取った人は「今まで肝炎ウイルス検査を受けたことがなかったので、受けたと思う」と話しました。
世界肝炎デーは毎年7月28日。ウイルス性肝炎のまん延防止、患者・感染者への差別や偏見の解消、感染予防等の推進のため、世界保健機構（WHO）が2010年に制定した国際記念日です。
（済生記者 酒井あい）

奈良病院
ワークエンゲージメント
研修で職場を活性化

7月15日・29日、京都文教大学の多胡雅博先生を講師に招い



てワークエンゲージメント研修を実施しました。
ワークエンゲージメントは「組織開発」と訳され、職場の活性化を図るための研修です。今年度は栄養部・薬剤部・施設管理課・ケアプランセンターの職員合わせて20人が参加。「活気ある職場づくりのために」をテーマに、2日間で約6時間に及ぶグループワークを行ないました。
研修を終えて、講師の多胡先生は「病院内にはさまざまな部署があるけれど、研修前から患者ファーストの考えが共通概念としてみなさんの中にはあるので、一般企業での研修とは感触が全然違いました」と話してい

ました。
研修を終えて、講師の多胡先生は「病院内にはさまざまな部署があるけれど、研修前から患者ファーストの考えが共通概念としてみなさんの中にはあるので、一般企業での研修とは感触が全然違いました」と話してい

ました。
今後この研修で得たことを生かし、病院全体の活性化につなげていきます。
（理学療法士 操野 央）



消防訓練で
火災時の行動を学ぶ
（福岡）大牟田病院
6月28日に消防訓練を実施しました。
年2回、出火元を変えて様々なパターンで訓練が企画されますが、今回の出火元は火を扱う機会が多い栄養科でした。
各部署から集められた参加者約30人は、通信連絡、初期消火、避難誘導などの任務を分担され、決められたシナリオに則り訓練に臨みました。
その後は消防署の指導のもと、実際に消火器を使用した訓練を行ないました。初めて消火器に触った人もいましたが、訓練を通じて消火器の正しい取り扱い方や、初期消火の重要性を学ぶことができました。
また、当院は2020年7月の記録的な豪雨により、床上浸水などの多大な被害を受けました。今回は防火訓練でしたが、

和歌山病院

「ぶんだら節」で盛り上がる
8月5日に開催された、第55回紀州おどり「ぶんだら節」に参加しました。
昭和44年に始まる伝統ある祭り、ミカンを江戸に運んだ紀州出身の豪商・紀伊國屋文左衛門をイメージして作られた民謡「ぶんだら節」のリズムに合わせて、紀州おどりを踊りながら和歌山城周辺を練り歩きます。
今年度は4年ぶりの開催で、全53団体・約4600人が参加。当院からは川上守院長・英肇統

ました。
今後この研修で得たことを生かし、病院全体の活性化につなげていきます。
（理学療法士 操野 央）

ました。
今後この研修で得たことを生かし、病院全体の活性化につなげていきます。
（理学療法士 操野 央）



わかくさ訪問看護ステーションはすでにBCPを策定しているため、既存のものを踏まえた活発な質疑応答も行なわれました。

終了後、参加者からは「発災時は自ら判断することが重要で、その際に必要な心がまえやイメージが明確になった」「訪問看護という業務形態に目線を合わせた講義内容でありがたかった」といった感想がありました。
（済生記者 高木裕子）

東神奈川
リハビリテーション病院
初の病院機能評価受審
7月19・21日の3日間、病院



機能評価を受審しました。
当初の計画では昨年1月の受審予定でしたが、新型コロナウイルス内発生による受審延期のため、プロジェクトのキックオフから受審までの活動期間が約2年半にも及びました。
また、病院機能評価の受審自体が初めての経験だったことに加え、リハビリテーション機能の「本体審査」と「高度・専門機能」のダブル受審でもあったため、職員にも相当な負担がかかりました。
しかし、全職員一丸で病院の質改善について議論・情報共有をする中で、多職種連携が促進。さらに、質改善へ取り組む文化・風土醸成への一歩となりました。
（医事課長 濱崎啓師）

訪問看護ステーションで
BCP 研修

横浜金沢医療福祉センター

括副院長をはじめ職員とその家族総勢79人が参加しました。
事前に練習を行ない一体感を高めた甲斐があり、当日は大変盛り上がり親睦も深めることができました。
初めて参加した職員からは、「最初は緊張していましたが、だんだん雰囲気にも慣れ、あっという間に時間が過ぎました。息子も喜んでくれていたのでよかったです」など祭りを満喫した多くの声がありました。
（済生記者 松元靖寿）

本部事務局の奥野史寛危機管理専門員による災害研修が、7月26日、わかくさ訪問看護ステーションで開催されました。
当日は、藤

井優子管理者を含む看護師4人、事務員1人が参加。災害医療やBCP（事業継続計画）に関する講義の後、ハザードマップを示しながら、横浜市金沢区での災害時の対応とBCPの必要性について具体的な講義を受け





よるこびがつなく世界へ
KIRIN

午後の紅茶
ミルクティー

GOGO-TEA.jp
キリンビバレッジ株式会社 のんだあとほりサイクル。

Saisei
[3号連続] 読者プレゼント

★(9月号) 午後の紅茶ミルクティー 500ml×24本を10名に★

応募方法: メールで広報室 koho@saiseikai.or.jpへ 締切(9月号分) 9月30日

- 提供: キリンビバレッジ株式会社 <https://kirinproducts.jp/softdrink/>
- 当選は発送をもってかえさせていただきます。応募者・当選者の個人情報 は景品発送後速やかに破棄いたします。
- 氏名(フルネーム)・郵便番号・住所・電話番号を必ず記載の上、ご応募ください。

〈山形〉はやぶさ保育園

楽しいいっぱいの日

7月28日、当園の年長児24人が待ちに待った「お楽しみ保育」



を行ないました。

当日は朝早くにバスで園を出発。河北町の「サハトベに花」館内でプラネタリウムを観たり、1人100円を握りしめて児童市にある「んだごんぱ」という駄菓子屋で好きなお菓子を買ったり、とても楽しいバスツアーとなりました。

園に戻ってからは、園で収穫した野菜を使つてのカレー作り。事前に担当の係を決め、野菜を切るチームや野菜の皮を剥くチームなど、計8チームに分かれて調理を進めました。

友だちと協力しながら作ったカレーは格別に美味しく、何度もおかわりをして「おいしい!」「もっと食べたい!」と大満足。いつも以上に食事が進んでいました。

その後は映画鑑賞や花火などを行ない、充実した一日となりました。

(済生記者 齋藤里奈)

〈埼玉〉加須病院

地域救急医療の発展につなげる小児救急勉強会

小児救急勉強会「SQO(すくおー)」を7月19日、対面と

きがいのある職場を目指していきます。

(済生記者 高畑貴子)

〈鳥取〉境港総合病院

消化器がんから市民を守る

7月23日、市民公開講座「消化器がんから市民を守る」を境港市市民交流センター(みなとテラス市民ホール)で開催しました。当院と鳥取大学医学部附属病院との共同講演は今回が初めてとなります。



Webのハイブリッド形式で実施し、病院関係や消防職員、教職員など地域医療に関わる約200人が参加しました。

この会は、小児に関する症例検討会を通じて救急活動の検証を行ない質の向上につなげることや、各疾患について理解を深めて知識・技術を身に付け、よりよい救急医療を住民に提供することを目的としています。

2012年に開始し、21回目となる今回は、埼玉県東部消防組合の救急救命士2人による症例発表に続いて、埼玉県小児医療センター外傷診療科の荒木尚医師と当院小児科の西川愛子医師が各疾患の解説を行ないました。質疑応答も活発に行なわれ、

充実した会となりました。

(済生記者 蓬田絵里子)

岡山済生会総合病院

頑張っている職員にホスピタリティ賞

6月27日、職員満足度向上(E.S)委員会の活動の一環として今年度新設した「ホスピタリティ賞」の第1回贈呈式を行



ない、受賞者6人を表彰しました。

受賞者の西中綾子看護師と坪井理恵看護師は、IVR看護記録のテンプレートを作成し業

めていきます。

(済生記者 亀尾美子)



開演の挨拶では、当院の佐々木祐一郎院長が「みなさん、ご自身の健康を気にかけてください。そしてみなさんの大切な人にも健診の大切さを伝えてください」と参加者に語りかけました。

その後、医師6人がそれぞれの専門分野から消化器がんについて講演し、200人を超える参加者のみなさんが熱心に耳を傾けていました。これからも、地域の関係機関と連携し、住民の健康増進に努

務の標準化と効率化に貢献。山下祐子看護師は動画教材を自ら作成し、病棟看護師への指導に役立てたことなどが評価されました。

そのほか3人の職員が、研究結果の論文発表、学会活動に取り組み姿勢、丁寧な対応などを評価され受賞しています。

今後は年に3回の表彰を行い、さらに年間の受賞者の中から今年度のベストホスピタリティ賞を選出する予定です。職員が職員を讃え合い、支え合う働

3年ぶりにがんサロン

過去最多14人参加

静岡済生会総合病院

7月20日、がんサロン「なでしこ」を、院内カフェで3年ぶりに開催しました。

がんサロンは、がん患者さんやご家族の交流、情報交換、相談の場。2017年に設立し定期的に開催してきましたが、コロナ禍により20年3月以降休止していました。

当日は過去最多の14人が参加



院内スタッフ、静岡県対がん協会スタッフ、ピアサポーターのみなさん

食事の工夫についてアドバイスした後、ピアサポーターさんを中心に治療に対する不安や治療費のことなどについて情報交換を行いました。

8月5日に夏祭りを開催しました。ここ数年はコロナで行事そのものを見送ったり、年齢別の開催にしたりと、参加人数を制限して行なっていました。今年園児80人、職員36人が勢ぞろい。みんなで集えることに喜びを感じつつ、職員も張り切って準備を進め、この日を迎えました。

みんなで集まれる喜び

保育園

(済生記者 酒井あい)

〈栃木〉うつのみやなでしこ

はじめに園庭で、栃木県済生会の小林健二支部長と宇都宮病院の小林阿由美看護部長が挨拶。その後、園児による山車、お神



輿の練り歩きや盆踊りを行ないました。

園児たちは園内各所に設置されたゲームコーナーやおもちゃすくい、くじ引き、手作り自動販売機、親子製作コーナーなどを自由に回り、家族と一緒に楽しいひと時を過ごしました。

(保育園事務 福田 郁)

〈三重〉明和病院

高校生が職場体験「看護師になる」

重症心身障害児(者)施設「な

事できることが特に大切であることを伝えました。また、バイタル測定やベッドシートの交換も体験に加えました。

高校生2人は、初日こそ聴診



でしこ」では、6月9日・12日、看護職に興味のある高校生2人を対象に5日間の職業体験を実施しました。指導したのは、井上由麻看護主任と山下万祐子看護主任。食事介助では、ハンバーガーやポテトをペースト状にした上で、見た目を損ねないように元の形状に近い形にして提供。安心安全だけではなく、楽しく食



に苦戦する姿もありましたが、後半の日程になると測定器の数値を目で追いつながら言うまでに成長しました。

日を追うごとに看護師への質問が増え、最終日には「今回の体験で看護師になることを決めた」と、前向きな言葉を聞くことができました。

(看護主任 井上由麻)

〈愛媛〉松山乳児保育園

スイカ割りに挑戦

園児42人と保育士8人が参加して、8月1日、スイカ割りを行ないました。

子どもたちは、普段から給食で食べている切ったスイカと異なり、丸い大きなスイカを見て大喜び。抱っこしたり、転がしたりして遊んだ後、保育士に教わりながら2歳児からスイカ割りに挑戦しました。

友だちに「頑張れ〜！」と応援される中、棒を振り上げ、スイカに当たるまで何回も叩きまします。命中すると周りから拍手が起こり、うれしそうに笑顔を見せてくれました。

その様子を見ていた1歳児も興味津々。自分の順番が回って

くるとすぐに棒を持ち、2歳児を真似してスイカを叩いていました。

(済生記者 別府絵里)

滋賀県病院

学会発表で当院研修医2人に優秀賞

第135回日本循環器学会近畿地方会が7月15日に開催され、当院初期臨床研修医の島孝允医師と内田康仁医師の2人が「学生・初期研修医セッション」

で優秀賞を受賞しました。指導を担当した肌勢光芳循環器内科部長からは「循環器診療に興味を持ってくれた2人に学会発表を打診し、受賞を目指して3カ月間ディスカッションを重ねた。その過程を通じてより深く内容について話し合うことができ、循環器診療への興味を深めてもらった結果が今回の受賞に至ったと感じている。両名の進路選択に良い影響を与えられたのであればうれしく思う」とのコメントがありました。先生方、受賞おめでとうございます。

(済生記者 西澤真由美)





〈北海道〉小樽病院
暑さに負けず「わっしょい」

院内保育所「なでしこキッズクラブ」の夏祭りを、8月4日とても北海道とは思えない酷暑中で開催しました。

子どもたち24人は甚平や浴衣でばっちり決め、山車チーム、おみこしチーム、バギーチームに分かれて病院を一周。今年も山車は先生方お手製のバイキンマンで、子どもたちは大喜びです。先生の吹く笛に合わせて、元氣いっぱい「わっしょい」「わっしょい」と声を出しお祭りを楽しみました。

途中、院外でリハビリをしていた入院患者さんも合流。子どもたちと一緒に、しばらく楽しそうに病院の周りを練り歩きました。

病院を一周した後は、みんな仲良く麦茶をたくさん飲んで水分補給をしていました。

（済生記者 松尾寛志）

岡山済生会総合病院
土曜夜市で無料健康相談

7月29日、奉還町商店街の土曜夜市で当院と岡山済生会外来



センター病院が合同で無料健康相談を行いました。

猛暑の中、午後4時にスタート。保健師・看護師による骨密度測定や血管年齢測定、医師の健康相談は順番待ちが出るほど好評で、終了予定時間の午後8時前には定員の120人に達しました。

コロナの影響で無料健康相談は4年ぶりの開催でしたが、ご近所の常連さんは「先生に相談ののってもらえるなんてうれしだね」と、笑顔で迎えてくれました。

友だち同士で夜市に来た大学



への寄贈はこれで12台となりました。今年の2台は、中津病院と大阪整肢学院で使わせていただきます。

赤星氏は現役時代、体の不自由なファンの方との出会いが

「自分の頑張る姿が勇気、希望になれば」と盗塁数に応じて車椅子の寄贈を行ない、現役引退後も慈善団体「Ring of Red」赤星憲広の輪を広げる基金「」を設立。現在も車椅子寄贈活動を続けています。

（済生記者 鈴木亜希乃）

〈群馬〉前橋病院
フットケアを通して
みなさんを笑顔に

糖尿病看護認定看護師の特化技術の一つとして「フットケア」があります。主に外来患者さんに爪切りや足の状態確認等を行なってきましたが、入院患者さんにもしてほしいとの要望が年々増えてきました。

そこで、病棟看護師のみならずにも協力してもらえたらと思いい、皮膚排泄ケア認定看護師との協働で、2021年4月より「フットケアワーキング」を立ち上げ活動しています。

各病棟からリンクナースを募り、フットケアの基礎学習から始め、自分たちの足のケアで実践し技術を習得。今では病棟からの依頼に加えて、隣接する老人施設の利用者さんのフットケ

生らも「こんな機会はめったにないので測定してほしい」と順番待ちの列に快く並んでくれました。高齢者ばかりではなく若い世代にも、健康について改めて考えるよい機会になったと思います。

（済生記者 高畑貴子）

〈山形〉特養愛日荘
納涼花火会でみんな笑顔に

毎年恒例の「納涼花火会」を7月26日、当施設の正面駐車場で開催し、利用者さん・職員含め30人ほどがキラキラ光る花火を楽しみました。

夕暮れどき、薄暗くなってきた空の下でスタート。手持ち花火から始め、次に吹上花火、最



後に打ち上げ花火を行ないました。

楽しみ方は人それぞれで、両手に花火を持ちグルグル回したり、ジーツと火を眺めていたり。「昔したっけな」「久しぶりだな」などと懐かしむ声があちこちから上がりました。

物価高騰、コロナ禍による制限等さまざまな制約があり暗い影を落とした昨今ですが、利用者さんも職員も終始ニコニコと笑顔が見られ、日頃の憂さを晴らしてくれたようです。

（済生記者 高橋 睦）

元阪神・赤星選手が
「勇気」の車椅子寄贈

〈大阪〉中津医療福祉センター

8月9日、元阪神タイガースの赤星憲広氏から「勇気」と直筆サインが書かれた真つ赤な車椅子を2台寄贈していただきました。

車椅子の寄贈は、文化ボランティア委員長の森山明宏産婦人科部長から赤星氏への橋渡しにより、2017年に開始。当センタ



アを行なうまでになりました。リンクナースの声掛けにより、病棟看護師の間でもフットケアが意識付けられ、足の観察を行なうことも周知されてきたのではないかと感じています。

（外来診察室 副師長 高草木由里）

〈大分〉日田病院

「日田で働く」
地元情報誌が取材に

まほろば訪問看護ステーションの看護師、理学療法士のスタッフ4人が7月12日、「日田式情報誌ヒタスタイル」の取材を受けました。

同誌は地元の月刊情報誌。今



回の企画は、日田市内のさまざまな業種で働く人にスポットを当て、地元「良さ」を再認識してもらおうというものです。

当日は、「日田で働く」をテーマに取材が進行。その後は、和気あいあいとした雰囲気の中、日常の仕事の様子を次々と撮影してもらいました。

開設してまだ3カ月のまほろば訪問看護ステーションですが、今回の取材を通して地元市民に少しずつ周知されていることを改めて実感しました。

今後は若い地元市民にも知ってもらい、「日田で働く」につながることを願っています。

（済生記者 石井 玲）

topics

ICLSインストラクター6人が在籍しています。当日は、コースディレクターの林靖之千里救命救急センター広域調整部長の指導のもと、近隣医療機関からの参加を含むインストラクター16人、受講生18人を含めて15人が受講しました。受講生は6人1グループとなり、3グループに分かれてシミュレーション実習を繰り返して、約1日かけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医



ICLSとは医療従事者のための蘇生トレーニングコースで、当院には認定ICLSコースディレクター1人、認定



虜になる人続出！ 布ぞうり作りで脳トレも

〈神奈川〉横浜市六浦地域ケアプラザ

7月13日、毎年好評の手作り部「布ぞうり作り講座」を開催し、今年は14人が参加しました。浴衣地をほどこいて細長く切った紐状のものとロープを編んでいく作業は、指での引き締め加減がポイント。

療を習得しました。医療従事者が急変時に一人でも多くの命を救えるように、当院では今後も継続してコースを開催していきます。

（済生記者 秋山みゆき）

当初はみなさん四苦八苦していますが、要領を覚えると不思議なくらいどんどん編み進むことができます。頭を使い、手を使い、脳トレにもなるこの布ぞうり作り、虜になる人が続出です。90代の参加者（写真）はいつもチャレンジしに来られます。

高校生8人が病棟などでボランティア体験

〈埼玉〉川口総合病院

当院は川口市青少年ボランティアスクールの受け入れ施設の一つです。7月27・28日の2日間、高校生8人を受け入れ、車椅子体験、小児科病棟・図書などのボランティア体験、病棟実習を行いました。

（済生記者 原 衣里奈）



〈茨城〉水戸済生会総合病院 健診で防ごう慢性腎臓病

「市民公開講座2023 健診を受けて防ごう慢性腎臓病（CKD）」と腎臓病啓発イベントをイオンモール水戸内原で6月4日に開催し、延べ800人以上が来場しました。

本講座は水戸市・茨城県央腎臓病地域連携協議会との共催で、市民に健診と腎臓病の関係性を周知することを目的に始まりました。今回で7回目となります。当日は、慢性腎臓病に関する講演、健康相談や血圧測定、リハビリ指導などを行ない、盛況のまま閉会しました。

腎臓内科の海老原至副院長は、



「自覚症状のない慢性腎臓病について少しでも多くの方に知っていただき、健診による疾患の早期発見を自治体と協力して取り組むことで、将来的に透析患者数の減少につなげていきたい」と地域への貢献について目標を語りました。

（済生記者 今野正俊）

〈奈良〉御所病院 医療接遇をみんなで学ぶ

全職員を対象に4月28日から5月22日にかけて、4回の医療接遇研修を行ない、計2000人が参加しました。

「自己覚知」「尊厳を守る」「思いやり」の三つのキーワードを踏まえ、院内で実際に目にした接遇場面の再現動画と、改善例の動画を作成。研修では、両動画を比較し、参加者にわかったことや感じたことを発表してもらいました。

参加者からは、「相手の立場になって考えることを意識し、習慣づけていきたい」「思いやりの言葉を添えて、あたたかい気持ちで過ごしていただけた病院にしていきたい」といった意見が多く寄せられました。

今回の研修を機に、各部署で接遇を改善するための目標を設定し、定期的に達成状況を共有していく取り組みを開始。患者さんがより安心して過ごすことができる病院になることを目指していきます。

（地域医療連携室 福井拓真）

〈大阪〉千里病院 チーム蘇生を学ぶ ICLSコースを再開

7月1日、コロナ禍で休止していた「ICLSコース（ACLS大阪 日本救急医学会認定コース）」を3年ぶりに開催しました。

手加減が難しいのでハラハラして見守っていましたが、講師の協力もあり、今では「とても楽しいのよ」と笑顔で話してくれているようになりました。手芸もれっきとした脳トレだと、手芸マニアの筆者は思います。

（済生記者 山田和恵）





「看護師に戻りたい」を支援

〈群馬〉前橋病院

群馬県看護協会とタッグを組み、8月1〜2日の2日間、「潜在看護職員復職支援研修」を実施しました。参加者は看護師2人と准看護師1人で、いずれも子育てをきっかけに現場から遠ざかっている方々です。

研修初日は、看護部長による済生会の紹介を皮切りに、医療安全・感染管理・口腔ケアなどの講義、シミュレーターを使用した採血、吸引の実習。また、互いに患者・看護師役となり、体位交換や除圧を体験しました。「つらかった学生実習を思い出します」と緊張の面持ちの参加者たちでしたが、研修を重ねるごとに表情が和らぎ、笑顔が見られるようになりました。

2日目は、病棟業務をシャドールーミングし、患者さんの保清も体験できました。

全国には79万人もの看護師・准看護師が潜在化しているといわれます。今回の研修が3人の

復職のきっかけとなるよう願っています。

（HCU看護部長 櫻井典子）

読み解け！心電図

〈山口〉下関総合病院

7月19日、臨床研修医を対象とした心電図の勉強会を開催し、8人が参加しました。

講師は認定心電検査技師の安藤弘紀技師です。

第2回となる今回のテーマは、急性心筋梗塞。「ST変化」の意味や梗塞部位を推定する方法の説明などに続いて、実際の症



例を研修医が判読していきました。

それぞれに解説があり、「なるほど〜」などという声が出て、理解が深まっている様子。気心知れた仲間が集まった勉強会ということもあり、大変和やかな雰囲気でした。

早速、「次回は不整脈特集」という要望が出ていました。今後も検査室のエキスパートによる勉強会を開催し、研修医教育の一翼を担っていきます。

（済生記者 安岡佳成）

コロナへの取り組みに対し知事感謝状

〈群馬〉前橋病院

当院の新型コロナウイルス感染症へのさまざまな対応が評価され、7月12日、群馬県健康福祉部感染症・がん疾病対策課の中村多美子課長から知事感謝状をいただきました。

当院は感染症拡大の初期から県の要請に基づき、療養ホテルへの看護師派遣、最大14床のコロナ専用病床設置のほか、発熱外来やワクチン接種、クラスター防止対策チーム、県合同ワクチン接種会場への医師・看護師

派遣にも取り組んできました。感染症法上の分類が5月8日より、これまでの2類相当から5類へと移行しましたが、コロナ専用病床での受け入れは引き続き行なっています。これからも地域の基幹病院として求められる機能を發揮して、県民の命と健康を守ります。

（管理局長 吉田 誠）



88人で元氣いっぱい！潮ねりこみ

〈北海道〉小樽病院

7月29日に開催された「第57回おたる潮まつり」の「潮ねりこみ」に、北海道済生会として総勢88人で4年ぶりに参加しま



した。

潮ねりこみは潮まつりのメインイベントで、企業・団体が一団となり、小樽市内を音頭に合わせて踊りながら練り歩きます。

当日は最高気温32・6度の真夏日でしたが、誰一人脱落することなく、約1時間30分のねりこみを最後まで元氣いっぱいに踊り続けることができました。

残念ながら今年も入賞は逃がしましたが、親に抱っこされた赤ちゃんも参加し、参加者全員で楽しく踊れたという点で当チームが一等賞だったと信じています。

来年はもっと大所帯で参加できればと思います。

（済生記者 松尾寛志）

未来の看護師への第一歩！

〈栃木〉宇都宮病院

7月5日・19日、看護師を目指す高校生を対象とした「ふれあい看護体験」を4年ぶりに開催し、計67人が参加しました。

体験内容は、手指トレーニング教材「グリッターバッグ」を使用した手指衛生をはじめ、車椅子やストレッチャー・血圧測



定などの医療機器体験、人形・AEDを使用した心肺蘇生のレクチャーなど盛りだくさん。また、実際に病棟に出向き、看護師の動きを見学するだけでなく、入院患者さんと会話を交し、看護師と一緒に手浴や足浴などを行ないました。

参加者からは「コミュニケーションの大切さを実感した」「実際の患者さんに優しく接する看護師の姿を見て、自分も目指したいと思った」などの感想をいただきました。

（済生記者 川原彩花）

第2回幹事会が大阪で

肝臓共同研究グループ

全国済生会肝臓共同研究グル



ープ（事務局・吹田病院）の本年第2回幹事会が8月19日、大阪市でハイブリッド形式にて開催。「LAL-D欠損症」「C型慢性肝炎」「NASH/NAFLD/MALFLD」「肝細胞癌」「急性肝炎」の研究について、進捗状況と問題点、今後の予定などを活発に討議しました。冒頭、幹事として長年支え、亡くなられた唐津病院の柳田公彦先生への黙祷を一同でさげました。今後、柳田先生の鋭く示唆に富むご意見をいただけないのは寂しいですが、全員、研究への意欲を新たにしました。

（岡山済生会総合病院 内科医長 川上万里）

医療とものづくりの
つながりを学ぶ

熊本病院

8月2日、熊本高等専門学校
の学生14人が来院し、医療体験
を行いました。

この企画は、熊本県で毎年夏
休みに開催されるイベント「科
学の祭典」の一環。子どもたち
に身近な医療機器の不思議をわ
かりやすく楽しく伝えるために



同高専の学生が行なう機器製作
を、当院が医療面でサポートす
るものです。

当日は、総合診療科の杉山
眞医師が筋萎縮性側索硬化症
(ALS)を題材に、講義を通
じて医療とものづくりのつなが
りの大切さを伝え、太田瑞穂運
動指導士が敏捷性の測定方法と
その機器について解説。機器の
体験もしてもらいました。また、
泌尿器科の三上洋医師による手
術支援ロボット「ダヴィンチ」
のレクチャーの後、操作体験を
行ないました。

学生からは「工学が医療をサ
ポートしていることがわかり誇
らしくなった」「間近で手術支
援ロボットの精密さを知ること
ができたので製作に生かした
い」とのコメントがありました。
(済生記者 東 賢剛)

長崎病院

病院機能評価受審に
チーム一丸で取り組む

8月2〜3日の2日間にわた
り、病院機能評価3rdG:Ver.30
を受審しました。

当院の受審は今回で3度目
ですが、今年4月から3rdG:Ver.

他病院のさまざまな職種のスタ
ッフとも交流でき、とても貴重
な経験となりました。

これからも離島に住んでいる
方々の健康維持のため、可能な
限り巡回診療を続けていきます。
(総務課 木本薫子)

兵庫県病院

来春入職予定者で交流会

当院看護部では、来春入職予
定者を対象とした内定者交流会
を8月1日に開催し、19人が参
加しました。

当日は院長、看護部長の挨拶、
参加者の自己紹介に続き、3グ
ループに分かれてグループワー
クを行ないました。

自己紹介ではかなり緊張した
様子でしたが、グループワーク
では徐々に緊張もほぐれ、活発
な意見交換がみられました。そ
の後の発表や質疑応答でもしっ
かりと自分の言葉で話してい
たのが印象的でした。

閉会後はLINE交換や趣
味の話で盛り上がるなど、みな
さんとても楽しそうでした。同
期の仲間と一足早く会えたこと
で、入職への不安も少し和らい
だのではないのでしょうか。



が運用開始。新たな評価方
法が導入され、一般病院2で受
審する当院は「カルテレビュ
ー」「テーマ別調査(事務ブロッ
ク)」「医療安全・感染対策ラウ
ンド」「面接調査(医師・看護
師教育)」が追加項目になりま
す。

受審の情報が少ない状況下、
若澤潔人副院長を委員長に多職
種36人のチームを立ち上げま
した。カルテレビュアーやケア
プロセスの練習など、各部署が
連日遅くまで頑張り、受審に向
けて病院が一丸となる姿に感動
しました。
当日はサーベイヤーから「指



これから残りの実習がある人
や、国家試験を控えている人も
いますが、この日の仲間と来春
4月に再会することを励みに頑
張ってもらいたいです。
(経営管理部 経営企画推進室
吉井梨恵)

(東京) 中央病院

第3回虹の아트展

当院北棟2階レストラン内の
健康情報コーナーで、7月24
日〜8月18日に「第3回虹の
아트展」を開催しました。
BLUES」を開催しました。
現在当院が取り組んでいるソ



ーシャルインクルージョン推進
事業の一つで、今回は今年3月
の開催に続き3回目。
特定非営利活動法人「虹色の
風」のみなさんの監修により、
障害がある作家の作品16点を展
示しました。さらに、絵画だけ
でなく、特定非営利活動法人工
房ラピールから出展していた
いた「さをり織」7点も。織物
の展示は今回が初めてです。
会場にはテーマの「BLUES」
にちなんだ雰囲気のできな作
品が多数展示され、鑑賞に訪れ
た患者さんや職員の日を喜ばせ
ていました。
(済生記者 鈴木香純)

示通りサクサク開いていただき、
進めやすかったです」とお褒め
の言葉も。最後の講評では、良
い点や改善点など細かく指摘が
入り、準備不足の点も否めませ
んでしたが、良い結果を待ちた
いと思います。
(済生記者 平川幸子)

(愛媛) 松山病院

済生丸で宇和海4島を巡る

7月4日〜6日、当院、今治
病院、西条病院のスタッフ総勢
34人で「第2次宇和海合同診療」
を行ない、日振島・竹ヶ島・戸島・
嘉島の四島をまわりました。済
生丸の船内では眼科診察とX
線検査、公民館等では小児科と
整形外科の診察、栄養指導等を
行ないました。

初日は本部から2人が取材の
ため同行。筆者を含め取材慣れ
していないスタッフは照れた様
子で取材を受けていました。
日常業務とは違うため、初日
は少し緊張しましたが、青い海、
深緑の山々に囲まれた素晴ら
しい景色と、温かく気さくな島
民の方々と触れ合うことができ、
心も身体も癒やされました。
また、普段関わることのない

ブラックライトで入念に手洗いチェック

〈滋賀〉老健ケアポート栗東

コロナ5類移行後も、感染予防対策は利用者さんの協力なしには成り立ちません。いま一度、日頃の手洗い方法を見直し、基本に忠実に行動するため、通所リハの利用者さん22



「えっ、こんなに残ってる」「丁寧に洗ったんやけどなあ」と、洗い残しがあることをご自身で確認することができました。

感染予防の基本は手洗いであることを改めて確認し、日々の手洗いに生かすことで、ご自身の健康管理を行なう一助になることを願っています。

〈介護福祉士 青木裕志〉

〈福岡〉大牟田病院

胃腸内科外来にリカバリー室を新設

当院では、7月31日に胃腸内科専用のリカバリー室を新設しました。

近年、消化器内視鏡検査では検査中にできるだけ苦痛のないように、鎮静剤を使用する患者さんが増加しています。しかし当院では、患者さんの休息用ベッド不足から、1日に鎮静剤を使用できる人数に制限がありました。

今回新設したリカバリー室に

は、計4床のベッドスペースと、検査を受ける前処置用の下剤を内服する専用スペース、検査前後の状態観察用モニターが設けられています。

これにより、鎮静剤を使用した患者さんは内視鏡検査終了後、ストレッチャー型のベッドのまわりリカバリー室に移動し、そのまま休憩できるようにになりました。

〈内科外来主任看護師 辻口愛美〉



愛知県三河青い鳥

医療療育センター

みんなで集まれるって最高!

医療型児童発達支援センターでは、7月14日に10組の親子が参加して、蒲郡市の竹島水族館へ親子遠足に出かけました。

みんなでアシカショーを楽しんだ後、海の生き物を見てまわりました。センター以外の場所で友だちと会い大喜びの子、ふれあいコーナーでサメを触り、肌の感触がやみつきになっている子、お母さんに買ってもらっ



たお土産を自慢げに職員に見せてくれる子——コロナ禍以降4年ぶりの遠足は子どもたちの笑顔でいっぱい!

普段、分散通園している子どもたちにとって、みんなで集ま

るのもコロナ以降初めてでした。「水族館楽しかったね、みんなが一緒だからより楽しめたね」と、子どもたちや保護者のみなさんと再確認できた一日となりました。

〈医療型児童発達支援センター 井上あい〉



〈大阪〉野江病院

高校生が当院看護師にインタビュー

大阪府立芦原高等学校の1年生4人が7月19日に来院し、授業の一環として当院看護師4人にインタビューを行いました。

最初は互いに緊張した面持ちでしたが、生徒からの「いつ頃看護師になろうかと思いましたか」「看護師に向いている人はどんな人ですか」などの質問に対し、看護師がそれぞれの思いを伝えると、だんだんと笑顔も見られ和気あいあいとした雰囲気生まれました。



〈山口〉豊浦病院

新生児の授乳を見学して中学生が大盛り上がり

8月9日・16日の2日間、地域の中学生11人が夏休みの職場体験のために来院しました。

オリエンテーションで自己紹介をした後、院内ツアー、ベッドメイキング、手洗いチェック、高齢者疑似体験、車椅子・ストレッチャー体験、その他看護業務の見学などを実施。

生まれて1日目の新生児の授乳を見学した学生たちは、「顔がこれ(こぶし)くらいしかない」「可愛い」「小さい」と、普段見る機会のない赤ちゃんに大盛り上がり。ストレッチャーの体験では、足から進むパ



〈済生記者 西田千鶴〉

終了後、生徒たちからは「大きい責任があり大変だけど、たくさんやりがいを感じる事ができる」とわかった。「今のうちから体力をつけ、勉強も遊ぶことも両立できるように心がけようと思った」などの感想がありました。

〈済生記者 坂本千晶〉

ターンと頭から進むパターンを体験。「頭から進んだら進行方向が見えなくて不安だった。足から進む理由がわかった」「押すときに患者さんの顔が近くにあったので、何かあったら気付けると思った」と、理解を深めていました。

「だす、おかわり！」

8月7日、利用者さん約40人が参加して、山形の夏の味覚「だし（年配の方は「だす」とも言います）」を食堂で一緒に作りました。



盆地が多く、北国なのに夏はとて暑い山形。そんな夏を乗り切るため、県の内陸部では「だし」を食べます。

基本的にはきゅうりやナスなどの夏野菜を細かく刻み、水で戻した納豆昆布（砕いたがごめ昆布）と、めんつゆ等と和えた料理です。これを白飯にとっさり乗せて食べると、美味しいのなんと。

材料をみんなで刻みながらワイワイ話をするのも楽しみの一つ。大きなボールいっぱい「だし」は夕食で振る舞われました。「んまいなー。だす、おかわり！」

と元気な声も。初めて食べるという隣の人も「さっぱりしておいしいわ」と笑顔で舌つづみ山形の夏を味わったひと時でした。（済生記者 岩城伸幸）

〈広島〉呉病院 将来、一緒に働けるかも？

高校生を対象とした「ふれあい看護体験」を8月3日に開催し、11人が参加しました。



まず、看護師のユニホームを着用し、血圧測定・手洗いチェックカーを体験。次に、看護師の説明を聞きながら、モニター・輸液ポンプ・シリンジポンプなどの医療機器を実際に操作しました。

また、昨年は実施できなかった院内見学を実施。病院には看護師以外にもさまざまな専門職が働いており、チームワークが必要だということを知ってもらえたと思います。初めは緊張した様子でしたが、徐々に笑顔も見られ、とても和

〈新潟〉特養長和園

三條大花火を、特等席で

8月5日、利用者さん約20人と職員・ボランティア10人などで三條夏まつり「大花火大会」を観覧しました。

長和園は花火打ち上げ会場のすぐ近く。利用者さんは各階のフロアや自室、外の駐車場などそれぞれのお気に入りの場所で4000発の打ち上げ花火を楽しみました。



「おっきいね」「よく見えるね」「降ってくるようだね」と感動を言葉に表す利用者さん。外で観覧していた人も後半は涼しい室内で、ド

やかな雰囲気の中で体験できました。アンケートに「機会があれば済生会で働きたい」と記入してくれた参加者も。将来、一緒に当院で働けるかも、と期待が膨らみました。（済生記者 植田 茜）

静岡済生会総合病院 静岡市消防局と合同訓練

7月3日、静岡市消防局との合同訓練を、当院のヘリポートで行ないました。



この訓練は毎年実施しているもので、静岡市と医療機関の連携強化と救急活動の効果向上を目的としています。

当日は、当院の医師たち6人がヘリコプターに搭乗し、病院屋上へリポートへの着陸訓練、機内における活動スペースの確認や、機体振動による可能医療行為の確認などを行いました。

訓練に参加した研修医2年目の葉山翔梧医師は「ヘリの音が大きくコミュニケーション」を取り直すことも大変でした」と振り返りました。また、研修医1年目の野々村

血管造影室からライブ中継！

熊本病院

第31回日本心臓血管インターベンション治療学会の目玉イベントとして8月4日、当院の血管造影室からカテーテル治療のライブ中継を行いました。学会全体として過去最高の国内外7000人以上が参加



ライブ中継への関心の高さがうかがえます。当院と学会会場をつないで、合計六つのインターベンションの特技を無事に配信することができました。

生中継用の機材が設置され、座長やコメンテーター、そして術者の会話（すべて英語！）が飛び交う、いつもとは違う雰囲気や環境の中、治療に関わるスタッフは粛々といつも通りの仕事をこなしている姿が印象的でした。

終了後、術者の先生からは、「当院の今までの経験やチーム力が生きた」「支えてくれたスタッフに感謝したい」という声が聞かれました。（済生記者 東 賢剛）

〈茨城〉水戸済生会総合病院 臨床研修指導医のためのワークショップ

当院の主催で、7月29～30日に「全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ（SWS）」を千葉県のセミナーハウスクロス・ウェーブ幕張で開催しました。本ワークショップは平成18年



2月に開始され、今回で49回目。チーフスタッフフォーラムに済生会保健・医療・福祉総合研究所担当顧問の船崎俊一医師を迎え、タスクフォーラム、特別講師の先生方の熱意あふれる指導のもと、全国の済生会病院から集まった臨床研修指導医20人が受講しました。

2日間のワークショップを通じて、受講者はもちろんスタッフとともに済生会の横のつながりを築くことができ、大変有意義な時間となりました。（臨床研修センター係長 平根琴美）

〈滋賀〉 守山市民病院

体験を通して
看護の魅力伝える

滋賀県看護協会による「高校生一日看護体験」の一環で、8月4日、看護職を目指す高校生2人が当院で体験を行いました。

午前中は病院全体の説明・見学と看護職に関するDVD鑑賞。午後からは病棟で、現場の看護師と一緒に実際の業務の見学や、ストレッチャーとベッド



の移乗体験などを行ないました。患者さんが話に加わり、しばらく談笑する場面もありました。

終了後に感想を聞くと、「患者さんともコミュニケーションが取れてよかった」「実際に現場を見てやりがいを感じられたし、楽しかった」などと話してくれました。

矢野昌子看護副部長は「大変なこともあるが、看護師はとても魅力のある仕事。学校で勉強してぜひ当院に来てください」と、未来の看護師たちにエール

を送りました。

（済生記者 中嶋元香）

〈山口〉 豊浦病院

血液浄化センターで
患者参加型の避難訓練

7月27日、地震後火災を想定した避難訓練を血液浄化センターで実施しました。

今回は患者参加型の訓練で、看護師、臨床工学技士、災害対策委員会のメンバー計17人が参加。アクションカード（役割別にとるべき行動が記載）を活用し、排煙口の開放（動きの確認）、緊急離脱・独歩患者、車椅子患



者、担送患者の順に避難を行ないました。

訓練後のミーティングでは「避難経路にある椅子が避難の妨げとなった」といった意見があり、位置を変更することで改善を図りました。

大規模な訓練ではなかったものの、参加した患者さんからは「訓練して、安心できた」といった声があり、訓練の大切さを実感しました。

（済生記者 西田千鶴）

〈山形〉 特養やまのべ荘

ソフトクリームを食べに
出かけよう

当荘デイサービスでは7月24日からの約2週間、近くの農協の直売所までソフトクリームを食べに出掛けるイベントを実施しました。

希望者を募り、5〜8人程度の小グループに分かれて外出。店頭で商品を品定めして注文する人もいました。103歳の利用者さんが、比較的大きなカップに入ったソフトクリームをペロリと完食する様子も目撃しました。

「最近出掛けても病院ばかり

だったから、楽しいね」との声も聞かれ、ここ数年制限が多かったデイサービス利用者さん

とって気分転換のよい機会になったようです。終わってみればこの間、延べ77人の参加がありました。

暑い中でしたが、利用者さんが喜んでいられる様子が笑顔と言葉からわかり、職員にとっても大変うれしい時間となりました。

（主任介護職員 薬科留美）

〈埼玉〉 鴻巣病院

献血活動に
厚生労働大臣感謝状

当院の献血活動に対し、8月8日に開催された「第54回彩の国さいたま愛の献血助け合いの集い」において「厚生労働大臣感謝状」をいただきました。

当院は令和元年に、日本赤十字社が活動継続20年以上の協力団体に贈る「金色有功賞」をいただいておりますが、積極的な協力が功績として認められ、今回の受賞となりました。

受賞2日後、8月10日に今年度1回目の献血を実施したところ、3時間ほどで35人の職員の協力を得ました。

献血担当として各部署へ参加をお願いしている筆者にとって、業務を調整して協力してください

る職員の気持ち为本当にうれしく、ありがたく思います。

全国的な輸血用血液の不足が続いています。今後も輸血を必要とされる患者さんのため、引き続き協力していきます。

（済生記者 田島利恵子）



〈愛媛〉 今治病院

4年ぶりの
高校生病院見学会

高校生を対象とした病院見学会を7月15日に4年ぶりに開催し、31人が参加しました。

当日は手術室、超音波検査、内視鏡検査、検査部、薬剤部、放射線部を見学・体験。

手術室では、こんなにやくに電

気メスを入れ、モニターを見ながら鉗子（はさみ）を操作して腹腔鏡手術の模擬体験をしました。超音波検査では、腹部にプローブを当てて、臓器の場所や画像を確認。検査部では、病理診断の体験として顕微鏡で病変部の細胞や組織を観察しました。

見学・体験後は、職種ごとの九つのブースを回り、各職種の担当者や質疑応答や意見交換を行ないました。

「興味のある職業を見つけることができた」「今後の進路の参



考になった」「改めて医療関係の仕事に就きたいと思った」などの感想が多く、生徒たちにとって有意義な時間になったと思います。

（総合医療支援室 阿部祥一朗）



〔静岡〕 特養小鹿苑
子どもの頃の七夕を
思い出して

小鹿苑デイサービスセンターでは7月3〜8日、七夕イベントを行いました。
ダイニング内に笹の葉を用意



し、利用者のみなさんと七夕飾りを作成。そして「子どもの頃の七夕を思い出して歌ってみよう」と声を掛け、みなさんで「たなばたさま」を一緒に歌いながら、作った飾りを笹の葉に飾りました。
早く病気が治りますように、

今年も元気に過ごせますように、元気に小鹿苑に通えますように……。短冊には前向きな願いが多くみられました。

他にもクイズやゲーム、昔を回想する会話、涼しげなおやつ提供など、新たな工夫を加えた今年の七夕イベントを楽しみました。

(在宅サービス課 石上奈美)

〔広島〕 老健はまな荘

七夕フルーツポンチで
笑顔もキラキラ

7月7日の七夕の日に、利用者さんへ職員手作りのおやつを提供しました。

今年は、天の川をイメージする「青」にこだわりたい一心で、



でしたが、利用者さんがキラキラした笑顔でおやつを食べる姿を見ることができ、製作に携わった職員も皆が大変喜んでいました。

(管理栄養士 平山由美)

〔広島〕 たかね荘こやうら
大雨でも楽しい七夕に

7月10日の施設行事では、利用者さんと一緒に七夕の飾り付けを行いました。

普段から手先の器用な利用者



さんをお願いして飾り付けのための「こより」を100本ほど作ってもらい、利用者さんと



行事の日となりました。
(介護職員 空井 憲)

神奈川県病院

折り紙イベントで
セタリース作り

7月3日、地域包括ケア病棟で七夕の折り紙イベントを実施しました。

参加したのは約20人の入院患者さん。ポランティアさんに折り紙の先生になってもらい、彦星と織姫の「セタリース」を作ります。一生懸命に折った彦星と織姫をリースに貼り付けたり、ペンで顔を描いたりしてから飾

り付け。個性豊かな作品がたくさん完成しました。

「不器用でもこれだけやれたのはうれしい」「うまく折れなかったけどかわいくできた」作業が難しいところもありましたが、皆さんが笑顔で語る姿が印象的でした。ただ折り紙を楽しみただけではなく、その場の雰囲気自体を楽しんでいて、病棟はとても和やかな笑顔に包まれました。

(済生記者 小山友輝)



大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください

トイレットペーパーの芯1年分が大変身!

息子の夏休みの自由研究のため、我が家では昨年から1年間かけてトイレットペーパーの芯を貯めていました。自由研究はトイレットペーパーの使用量を調べ、リサイクルについてまとめたものだったのですが、問題は研究後に残ったこの大量の芯。捨ててしまつたら「せつ



かくリサイクルについて考えたのもったいない!」というわけ……

息子と一緒に椅子を作ってみました!

段ボール箱に芯を敷き詰め、その芯の中につぶした芯を押し込み、二段重ねに。さらにウレタンを敷いて、カバーをかけて完成です。合計386本の芯を使い、重量級の私が乗っても壊れない頑丈な椅子が出来上がりました! とても簡単にできるので、お子さんの工作におすすめですよ!!

(福岡・飯塚嘉穂病院 済生記者)

春口勇介

★実践も兼ね備えた素晴らしい自由

研究。しかも一年も前から着々と準備を!! 最終日ギリギリに親に泣きついていたあの頃の自分を恥じました。

(大空出版 後藤藍子)

はたらくのりもの
ドクターカー!

6月24日に発行された「ひとりでもよめる! はじめてのずかん はたらくのりもの」(講談社ビブシー/講談社)に、当院のドクターカーが掲載されました。

ひらがなや数字を読み始める3〜6歳にぴったりの写真図鑑で、子ども

もたちが大好きなパトカーや消防車をはじめ、電車や飛行機船など「はたらくのりもの」がたっぷり240種類も掲載されています。その中の「きゅうきゅうのりもの」ページでなんと当院のドクターカーが紹介されています！

お子さんがいらっしゃる方、のりもの好きな方、もちろんそうでない方もぜひ当院のドクターカーを探してみてください！

(栃木・宇都宮病院 済生記者 川原彩花)

★こんなに乗り物の種類がたくさんあるとは知らなくて、びっくり！



全部乗ってみたいです。

(本部広報室 杉山菜央)

映像グランプリの審査員に

済生記者を務めていることも手伝ってか(？)、中四国映像製作社連盟主催「中四国映像グランプリ2023」CM・キャンペーン部門



の審査員のお話が。これも広報の勉強と自分に言い聞かせ、お引き受けしました。

各審査員は審査用非公開ページ上で、エントリー32作品を視聴して訴求性・企画力・演出力・技術力・独創性・地域性の6項目についてそれぞれ採点。上位作品には寸評を付け、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を選びます。

引き受けた際は1時間程度で済むものと簡単に考えていましたが、採点するのに15〜90秒の作品を何度さんとスタッフは今月からリハビリを兼ねた筋トレ開始ですね。

(本部広報室 河内淳史)

あの頃を思い出すメロンの味

7月28日、今年も当施設の家族会から入居者に山形県産のメロンが届きました。これは家族会からの夏の恒例の贈り物で、「入居者のみなさんに山形の旬の果物を食べて喜んでもらいたい」という思いが込められています。

食べやすくカットしたメロンは甘い香りで、「甘くておいしい」「見事なメロンだね」とみなさん大喜び。日頃食欲がない方もうれしそうに味わっていました。嚥下や飲み込みが難しい方には、甘い果汁やゼリーにして味わってもらいました。

「うづさいだころ(うちにいた頃)、子どもさ切っただけのよ(子どもに切っただけ食べたんだよ)



は、パンパンに実ったスイカを抱え「ずっしり重いね。おいしいといなあ」と味を楽しみにしていました。それから数日後のレクリエーション当日、みんなでスイカを囲み「スイカ割り大会」。実の詰まったスイカは想像より堅く、患者さんとスタッフで何度も叩き、ようやく割れました。味もおいしく、みなさん大喜び。笑顔の収穫祭になりました。

(宮崎・日向病院済生記者 村尾 愛) ★来年のスイカ割りに向けて、患者

も見返したり、比較したり、休憩を挟んだり、休日がほぼ一日潰れることに。大変ではあったものの、これからの施設PRの参考になることも多く、学びになりました。

これを機に地元テレビ局との太いパイプができ、施設のさらなる広報力アップにつながることを夢見ています。

(広島・老健はまな荘 済生記者 佐藤 聡)

★なんと、頼もしい済生記者！PRに悩む済生会のみなさん、困ったときはいつでも佐藤さんまで。

(本部広報室 河内淳史)

「ジョッキでGO!」で飲みニケーション活性化

コロナ禍の数年、人と人との接触が最小限になり、コミュニケーションのあり方が大きく変化しました。当院でも職場内の飲み会や集まりごとはすべて自粛。筆者自身もコロナ禍のど真ん中で中途入職したため、溶け込むきっかけをつくるのが難しかったです。そうした状況もあつたか、昨年度の離職率は例年に比べて高い傾向でした。

現在、新型コロナウイルスは5類に移行。そこで、「職員同士、お互いのことをよく知り、チームの結束力を高め、親睦を深めていただきたい!」という



梅干しサワーの梅干しを全然濃せていない!と全員で総ツッコミ

う清水吉則事務部長の発案のもと、当院では懇親会補助制度「ジョッキでGO!」を始めました。8月から来年3月まで、上司の承認を経て1人1回あたり上限5000円の飲み会実費補助(1人2回まで)が出ます。

ありがたい制度を利用するとともに、働く者同士の親睦を深めることで風通しを良くし、仕事の効率も上がることを期待しています。

(埼玉・川口総合病院 済生記者 原 衣里奈)

★なんとすてきな制度でしょう!弊社でもぜひ導入してほしいものです。(メディカル・リーフ 坂本陽子)

笑顔いっぱいスイカ収穫祭

日向病院のリハビリテーション科

広告索引

- 日立システムズ 表紙見返し [表紙 2]
- 麒麟ビレッジ 裏表紙 [表紙 4]

次号予告

済生 No.1132 [令和5年10月号]

- 済生会の不易流行論 (181) 炭谷 茂
- NEWSな済生人
- 済生会交差点
- この人 勇翔
- 口福にっぽん (73) 栗きんとん (岐阜県恵那市)
- てづくりおもちや いまいみさ

ストレス軽減にヤクルト1000

7月26日から、当院の職員食堂でヤクルト1000の販売を開始しました。

医療従事者は夜勤などで睡眠をとるタイミングが不規則な職種が多く、感染症防止へのストレスを特に感じながら日々の職務に当たっています。ヤクルト1000の効果には個人差はあると思いますが、スタッフのストレス軽減と睡眠の質向上の一助になればと導入。市場ではいまだに品薄が続いているヤクルト

女性が受診しやすい 病院を目指して

AI搭載の超音波診断装置の導入にご寄付を



Saiseikai Matsusaka General Hospital
社会福祉法人 済生会松阪総合病院

目標金額 800万円 2023年 7月18日(火) 9時から9月29日(金) 23時まで

— 済生会松阪総合病院から皆様へ — 乳がんの早期発見を目指した AI搭載の超音波診断装置の導入にご支援を

※本プロジェクトはAll in方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。

こんにちは。済生会松阪総合病院 病院長の清水敦哉です。当院は三重県の『女性が働きやすい医療機関』の認証を受け、たくさんの女性スタッフが活躍しています。なかでも乳腺センターは松阪市外からも多くの患者さんに来院していただいております。乳がんの特化した乳腺外科医が専門的に診断・診療にあたっています。

現在、乳がんは若い世代の発症も多く、日本人女性の乳がん罹患数は2021年で94,400人となり、がんの中で最も多く、今や、9人に1人が乳がんになる時代となっています。当院には超音波検査が得意な医師や臨床検査技師がおります。より安全に早期発見する優れた超音波機器があれば、鬼に金棒です。

そこで、この度当院ではクラウドファンディングに挑戦することとしました。AI搭載により人が発見する以上に早期のがん病巣を発見することができます。地域の乳がん早期発見のお役に立つために、広く皆さまの温かいご支援をいただき、最新鋭のAI搭載超音波機器を導入したいと考えています。

乳がんの早期発見と診断向上のために、
皆さまの温かいご寄付とご協力をよろしくお願いいたします。

病院窓口での寄付も承ります。インターネット上での手続きが難しい場合は、
済生会松阪総合病院まで直接ご連絡ください。

EMAIL : crowd@matsusaka.saiseikai.or.jp TEL : 0598-51-2626

READYFOR

済生会松阪総合病院 乳がん レディーフォー



<https://readyfor.jp/projects/matsusaka2023>

ト1000が、販売初日に専用のショーケースに170本も並びました。橋川健二事務長の尽力により、市場価格よりも安く購入できるため、陳列している間にも何人もスタッフが購入に訪れました。

設置後購入者第一号の橋川事務局長は「カープファンの自分がヤクルト製品を購入するのは！ というのは冗談ですが、自分も愛飲して効果を試したいです」と大満足でした。

(東京・中央病院 済生記者 鈴木香純)

★ヤクルト1000、本部職員でも愛飲されている方がいて、快眠しやすくなったかも？ とのことでした。

(本部広報室 杉山菜央)

関東大震災から100年
本部に残る貴重な資料

首都圏に壊滅的被害をもたらした関東大震災から9月1日で100年。本部事務局のある東京都港区では「大震災継承プロジェクト」が開催され、中央病院にも講演依頼がありました。その講演資料の一つとして

て本部にある「大震災臨時救済誌」(大正13年刊)を紹介しました。

本会設立11年目に発生した大災害に対し、多くの医療拠点・診療班が活動・奮闘した記録が全372ページにまとめられています。貴重な写真や図も収録され、今日まで続く「被災地救援」への本会の強い使命感と行動は、100年もの間であることが分かります。ぜひ活用ください。

本書の内容に触れた「済生会」の力第13集「災害医療」(無料)も、お手元どうぞ。

(本部総務課 出堀道子)



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために医療救済による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日、済生会を創立した。

以来今日まで112年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施薬救済」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人済生会となっている。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷茂
本部Ⅱ東京 支部Ⅱ40都道府県
病院 81
診療所 20
介護医療院 2
介護老人保健施設 28
救護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 120
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 64
地域包括支援センター 31
地域生活定着支援センター 5
その他 10
合計 403 (数字は令和4年度)

さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の60島の診療活動に携わっている。

職員数は全国で約6万4000人。

済生 [令和5年9月号]

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和5年9月10日発行

通巻第1131号(第99巻第9号)

編集兼
発行人 炭谷茂

発行所 社会福祉法人 済生会

〒108-0073

東京都港区三田1-4-28

三田国際ビルディング21階

TEL : 03-3454-3311 (代)

FAX : 03-3454-5576

印刷所 株式会社白橋

東京都中央区八丁堀4-4-1

©社会福祉法人 済生会

よろこびがつながる世界へ

KIRIN

夏が香る
アイスティー。



果汁0.1%



午後の紅茶®

Summer!

キリンビバレッジ株式会社

GOGO-TEA.jp のんだあとリサイクル。



グリーン・プリンティング
この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。

ISSN 1343-571X

濟生 THE NEWSLETTER of Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.
第1131号 (第99巻第9号)
令和5年(2023年)9月10日発行(毎月1回・10日発行)
編集兼発行人 渡谷 茂

社会福祉法人 濟生会
〒108-0073 東京都港区三田1丁目4番28号 三田国際ビルディング21F ☎03-3454-3311 (代)

令和5年
9月号